

名古屋芸術大学

後援会報

第50号 2011年3月31日発行

CONTENTS

- 1 目次
- 2 ごあいさつ
- 3 名古屋芸術大学近況報告
- 9 学生部からのメッセージ
大学へのお問合せ一覧
- 10 2010年度デザイン「Review」展のご案内
- 11 在学生及び卒業生の展覧会・各種コンクール等受賞結果
- 13 私が就職内定をもらうまで
- 15 親の想い
- 16 子の想い
- 17 2010年度後援会研修旅行・親睦旅行報告
- 19 東キャンパス芸大祭報告
- 20 西キャンパス芸大祭報告
- 21 後援会補助公開講座実施報告
- 25 音楽学部第38回卒業演奏会報告
大学院音楽研究科第13回修了演奏会報告
大学院美術研究科・デザイン研究科第15回修了制作展報告
- 26 第38回卒業制作展報告
- 27 第21回生涯学習大学公開講座報告
- 28 慶南大学グローバルハンマプログラムのご紹介
- 29 2010年度ブライトン大学賞受賞作品
- 30 同窓会総会・卒業生懇親会報告
- 31 大学運営組織図
- 32 後援会授業料貸付事業のご紹介
- 33 名古屋芸術大学後援会会則
- 34 木祖セミナーハウスのご紹介
編集後記

ごあいさつ



後援会長
澤 達彦

卒業生の皆さんおめでとうございます。

皆さんが満開の桜の下、希望に満ちて名古屋芸術大学の門をくぐって早4年が経ち、それぞれりっぱな花を咲かせられたのではないのでしょうか。

日本経済は、成長型から環境調和型に変わり、生活にゆとりと潤いが求められる時代になりました。他大学にない芸術創造力や情緒豊かな感性が備わった卒業生は、効率化と利潤追求型の管理社会から感性と理性を調和させる「ココロの時代」への変革のためにきっと貢献できると思います。

大学で、学問として音楽、美術、デザイン、人間発達を学び、研究の端緒に立ったところで、これから、生涯、社会のなかで実学としての芸術、創造、保育、教育などに取り組んでいくこととなります。

140年前の幕末に西洋の学問を貪るように学び、志半ばで去っていった、坂本竜馬、高杉晋作、中岡慎太郎ら志士たちが輝いたのは20代から30代です。彼らが目指した新しい日本を、新たに社会に船出されるあなた方に切り拓いていただきたいと思います。

これから10年学問を何か続けて、10年先に見つけられるものを見て、更なる10年間目指すものを探していく。こんなわくわくして楽しいことはないですね。

名古屋芸術大学、後援会、同窓会は卒業生の皆さんが卒業後の社会で精いっぱいご活躍できるよう引き続きご支援してまいります。

保護者の皆さま、お子様のご卒業を心からお喜び申し上げます。また、4年間お子たちを支えになられ、本当にお疲れ様でした。後援会にご協力いただきありがとうございます。最後に本学の教職員の皆さま、子供たちに親身にご指導いただきありがとうございます。卒業生の未来に幸有らんことをお祈りします。



学 長
竹本義明

卒業生の皆さん、ご卒業おめでとうございます。

卒業後の新しい人生でのめざましい活躍を心から祈り、大いに期待しています。

さて、皆さんは100年に一度という景気が急速に悪化するという状況の中で卒業されます。2010年度卒業の大学生の就職内定率が過去最大の落込みとなる中、就職活動には大変ご苦労されたことと存じます。皆さんは、これまでそれぞれの専門分野で深い研鑽を積み、芸術家、教育者としての心構えを身につけ、また、幅広い教養と豊かな感性を培ってこられました。

現在、世界的に日本を取り巻く状況変化はめまぐるしく、予測できない部分があります。とりわけ、技術の深化と情報の高度化が社会に及ぼす影響が極めて大きなものとなり、個人や組織体ともに、社会的存在としての自覚と責任が強く求められています。

最近の学生は、何をやりたいのか明確な目標を持つことが少なくなっています。大学はそれを模索する場としての機能を持っていると思いますが、今まで以上にグローバルな視点でものを見る目を養い、批判的な精神を培っていくことが必要と感じています。

社会において、芸術の持つ感性への関心が大きく膨らんでいます。それは、心の教育が重要と考えられるようになり、芸術の持つ創造性が社会システムの中で不可欠となり、特に広い視野と柔軟な思考には欠かせないものとなっています。

大学は、職業教育の重要性もあらためて認識するところとなりましたが、将来大学卒業者として、期待される職務適応能力を発揮し、芸術系大学卒業者としての誇りと自覚を持って社会でご活躍されることを期待しています。

名古屋芸術大学近況報告

音楽学部

《演奏学科》

声楽コース

声楽コースでは、今年も地元中学校での学生ボランティアによるオペラ鑑賞教室を行いました。この事業は本学と北名古屋市との教育協定に基づくもので、今年で3年目になります。昨年12月に熊野中学と天神中学校での発表公演となりました。

演目は「フィガロの結婚」の抜粋で、本来3時間のオペラを中学生に飽きさせないように見てもらうため約1時間20分にまとめました。すべて学生のアイデアによる内容で、簡単な小道具、自前の衣装、また照明も本学の機材を持ち込んでのまさに手作り感覚のオペラとなりました。中学生たちには少し内容の難しいオペラで楽しんでもらえるのかと危惧していましたが、公演後のアンケートでは「殆ど生の生徒が内容を理解していたことや、学生の歌や演技の迫りに感動した」と書いているのを読んでオペラ参加者全員が感激しました。

この鑑賞教室は中学生に大変いい教育効果をもたらすことは勿論ですが、本学の学生にとっても真剣なまなざしで食い入るように見てくれる中学生の前で演じることは、またとない発表の場で貴重な経験となっています。

他の音楽大学では、本学のように組織的にボランティア活動を行っているのを聞いたことがありません。このボランティア活動は、社会に出てからいざれ何かの機会での体験が活きてくると思われ、中学生、大学生相互に勉強になると思われるので、今後とも継続して行っていきたいと考えています。来年は小学校か高校での公演を、地元教育委員会に働きかけるつもりです。

声楽コースの定例のオペラ公演は、2月19、20日に名古屋市芸術創造センターにて「フィガロの結婚」を行います。今年は40周年企画の一環として行うため、かねてから韓国慶南大学校の推薦のあった韓国東西大学大学院の教授で、馬山交響楽団の常任指揮者の Baek Jinhyoun 先生をお招きし、本学の教員も出演した盛大な公演となります。

声楽コース 教授 澤脇達晴

弦管打・バンドディレクターコース

第49号に、ウインドオーケストラ、オーケストラについて予定として書いておりましたが、オーケストラについて書きたいと思います。

それは創立40周年で声楽の卒業生が、一緒に「第九の合唱つき」を演奏したことです。「熱い演奏会になるでしょう」とは書きま



したが、まさに合唱の素晴らしさにオケを聞きながら感動してしまいました。音楽に包まれた実感がありました。

10月に2週間ヴァイオリンの特別客員の、ベンジオン・シャミール先生がいらして、レッスン・室内楽又アンサンブルのレクチャー講座と弦の学生全員が、先生のレッスンを受けることができました。

弦管打・バンドディレクターコース 教授 森 典子

ピアノコース

今年度ピアノコースでは、昨年に引き続き特別客員教授としてアレクサンダー・セメツキー先生をお迎えしました。7月1日と10月21日の2回に涉ってロシア音楽の歴史の流れと特徴。その上でラフマニノフ作品を演奏するにあたっての良いアドバイスを、お話いただきました。

それ以外の公開講座として、11月25日マグダレーナ・リサク氏の演奏とリゲティ練習曲を中心にドビッシ、ショパンの練習曲との関連などの講演があり、12月16日にはエヴァ・ボヴォツカ氏のショパン オークストラ付きの曲の演奏会。2011年1月19日にクリステアン・ペトルーシュカ氏の盛り沢山の曲での演奏会を、音楽文化創造学科と共催いたしました。

またコース主催として7月15日コンチェルトの夕べ、8月11日サマーコンサート、11月11日ピアノの夕べ、2月19日春のコンサート、2月22日コンサート インブルーなど多彩なプログラムで演奏会を開催し、多くの学生がより豊かな演奏会を体験することができるよう、教員一同努力しております。また12月18日に北名古屋市市民芸術劇場として3名の学生が、ピアノコンチェルトを演奏することができました。

そしてファルバイ先生、セメツキー先生、プリンス先生(ウィーン国立音楽大学教授)など国際的に活躍されている先生方のレッスンを受けることができる機会を作り、学生達の大きな励みになっております。

ピアノコース 教授 岡 由美子

電子オルガンコース

2010年度の終わりに際して思い起こせば、月並みですが『あつという間の』1年間でした。

去る8月4日、名芸電子としては初の試みだった夏期ワークショップを本学キャンパスで催しました。講師陣によるアンサンブルクリニックや第一線で活躍するプレーヤーの窪田宏氏をゲストに迎えるなどの企画も当たったのか、中部・東海・北陸をはじめとして関西・関東からの方々も含め、外部からだけで150余名が集結！盛況の1日となりました。

毎年熱田での定演『アースエコー』は、企画・運営に4年生(2010年度卒業生)が奮闘してくれて、大変活

気のあるプログラムを展開することが出来ました。クラシック〜ジャズ、ポップスまで幅広いネタは本学の環境を最大限に活かし、他科の学生プレーヤーにも大活躍してもらいました。中にはサクスの山崎君のような本学出身のプロにもお手伝い願いました。ラストは、これも初試みでしたが電子の学生全員+お客様で名曲『ボレロ』を極めて名芸風にアレンジしたモノを演り、会場ヒートアップの内に幕を閉じました。

などなど、極めてイキイキという電子の伝統?は守られております。2011年度には頼もしい新入生らを迎え、新たにパワーアップして活きた音楽を発信出来るよう頑張りますので、皆様も名芸電子を続けてお見守り下さいますようお願い申し上げます。

電子楽器コース 准教授 鷹野雅史

《音楽文化創造学科》

ミュージカルコース

ミュージカルコースは、昨年に続き、高山市で「飛騨・童話会議」の公演に参加させて頂きました。「3年計画で完成度の高い市民ミュージカルを」というこの企画に、ミュージカルコースはその立案から関わらせて頂いています。今回はその最終年となりますが、吹奏楽、ダンス、コーラスへの参加者が毎年200人を越えるほどの活気を見せていて、その成果は確実に上がりつつあるように思われました。

3年にわたり、この企画に参加出来ましたのも、後援会から頂きました予算があつてのことで、後援会の皆様には深く感謝しております。この企画は、9月から始まる吹奏楽、ダンス、コーラスを学ぶキャンプからスタートします。名古屋芸大の教員、学生、研究員が週末に高山を訪れ、4歳から50を越す人たちと共にミュージカルの創作に取り組みます。3年目ともなると、地元の人たちが自主的にキャンプを行うことも多くなりました。ここで大きな力を発揮して頂いたのが、高山在住の卒業生の皆様です。この公演に参加出来ましたことは、ミュージカルコースにとっても大きな財産となりました。

「飛騨・童話会議」の他にも、定例となっております3月の公演、また、昨年より行っている「ボクたちと同年の歌」を歌うコンサートなども行っております。

こうした公演に、足をお運び頂けましたら幸いです。

ミュージカルコース 教授 森泉博行

ジャズ&ポップスコース

ジャズ&ポップスコースは、授業の成果発表として「ロビーコンサート」を定期的に行っています。音楽創造文化学科各コースの学生が音響や運営を担い、様々な編成でカバー曲はもとより自作曲の発表をしています。最近では、地元の方々が演奏を楽しみに入場されるなど、コンサートが定着したように感じています。本コースでは、何よりも実際の演奏機会を重要と捉え、積極的に演奏活動を奨励しています。演奏の質的向上にご尽力頂いた、特別客員教授の山下洋輔、森山威男先生には退任して頂き、新たな分野の先生をお願いし、さらなる充実を目指すこととします。

ジャズ&ポップスコース 教授 竹本義明

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース

本コースの学生達は、舞台の表を成功させるために「何をすべきか!」を常に考え、そのノウハウを習得するために机上と実践に真剣に取り組んで居ます。今年度は、昨年度の高評価企画を更に充実した内容で継続実施して参加して参りました。

まず、地域の活性化を狙った「平成22年度小牧市音楽鑑賞講座“音のときめき” 8/7, 9/25, 11/20, 12/11, 1/11, 2/19」(官学共同企画)。新人の養成からデビューまでのプロセスを学んでいく「新人発掘・CD制作“GAN! GRION” ポップス5人グループ」(自主企画) 2/4 発売記念ライブ(DAYTRIP)。自分達の手で音楽界を紹介する「音楽情報誌“Oto-ari”」(自主企画) 3/1 発行。ショッピングモール(エアポートウォーク名古屋)を活用したイベント「ミュージカル(11/21)、子ども手作り楽器コンサート(12/11)、クラリネット・オーケストラ(1/23)」(株IWAT&名芸大・産学協同企画)。そして、コンテンツビジネスの徹底した実践体験を狙った港コンサート「名古屋芸大発! 未来を担う子どもたちに夢と希望を贈る“芸術が薫る・港100”港103・シリーズ(金管五重奏(11/28)、木管五重奏(2/27))」(地域密着型企画=ポートハウス)。更に、就職に直結する「インターンシップ」を夏期、冬期両休暇に実施致しました。

音楽ビジネス・ステージマネジメントコース
教授 小松孝文

音楽教育コース

音楽教育コースでは幅広い知識をもつ音楽教育者を育成するために、さまざまな角度からカリキュラムの充実をはかっております。たとえば、実践面では昨年と同様に、雅楽の楽器やハンドベルなどのさまざまな楽器に触れることのできる場を設け、それらの練習成果を披露すべく、昨年12月25日に岐阜県のじゅうろくプラザにおいて「親子で楽しむコンサート」を開催しました。

一方理論面では、2月15日に卒業論文発表会を開催し、3名の学生が発表しました。なお最優秀論文に関しては、3月27日に行われる日本音楽学会中部支部例会において発表の予定です。加えて、2月1日には世界的なソプラノ歌手である鮫島有美子先生による特別講義「日本の歌とその概核」(後援:本学後援会)が行われました。実践と理論の両側面から日本の歌の魅力に迫る、充実したエネルギーな講義で、学生たちも満足な様子でした。

音楽教育コース 教授 金子敦子

音楽療法コース

音楽療法コースではこれまでと同様、地域の障害児・者、高齢者施設にて音楽療法の実践授業を行っています。セラピストとしてセッションを進める4年生の姿は大変頼もしいです。また、2月11日には、第2回音楽療法コンサートを行い、70名を超える子供たちが演奏を披露しました。卒業生と在学学生もそのスタッフとして盛りたて、200名以上のお客様がいらっしやる大盛況の会となりました。

3月に行われるコンサート“ルネッサンス21”で、音楽療法コースの学生は映像を使用した演出にチャレンジします。また、コンサート前に、子供やそのご家族のための

ミニコンサートも企画しており、その準備に奮闘中です。
音楽療法コース 講師 伊藤孝子

サウンドメディアコース

サウンド・メディアコースでは、作曲・録音・音響というより具体的な表現方法と芸術がどのように結びついていくのかを考えられるように、日々授業を展開しています。通常の授業以外で以下の特別講義を実施しました。

10月20日(木) 16:00より本学1号館 701にて、コンピュータミュージックの先駆者である Carl Stone (カール・ストーン)氏を招き、特別講義を行いました。1972年から電子アコースティック音楽の作曲を始め、1986年からはライブパフォーマンスでコンピューターを使用しているカール・ストーン氏は、どのようにしてこの分野に興味をもったか、また、なぜ、コンピューターを使用するようになったか等をレクチャー頂きました。

11月8日(月) 18:15より、本学2号館大アンサンブル室にてアメリカ ロサンゼルス UCL A 大学教授 Movses Pogossian (モブセス・ポゴシアン)氏を招き「ソロヴァイオリン作品と現代作品における可能性」のレクチャーコンサートを行いました。バッハ：シャコンヌから始まり、クルターク：Signs, Games, and Messages、シャラフィアン：花咲く音(Blooming Sounds)といった現代作品を演奏、それぞれの作品についてレクチャー頂きました。また、シュニツケの「シヨスタコーヴィチ追悼の前奏曲」Schnittke, Prelude in Memoriam Dmitri Shostakovich, for 2 violins では、Vn. 2のパートをその場で学生がプリレコード(録音)し、録音したVn. 2のパートをステージ上のスピーカーから再生しながら演奏を行うといったパフォーマンスを行い、大変興味深い内容となりました。

1月8日(土)1年生の学外授業として、NHK名古屋放送局を訪問しました。テレビスタジオや映像編集スタジオ、MAルームなど、実際に放送されている番組がどのような環境で制作されているのかを見学することができ、とても充実した時間を過ごすことができました。また、見学後「NHKふれあいミーティング」に参加し、実際に番組を制作されている方々から貴重なお話を伺うことができました。

1月13日(木) 16:00より、ベルリン在住のピアニスト、クリスティアン・ペトルシュク氏の公開講座を行いました。ペトルシュク氏は、ピエール・ブレーズ氏が主宰するアンサンブル・アンテルコンタンポランのソリストとして活躍し、幅広い分野での優れた音楽的解釈を通して、名声を博してきました。本学での演奏会では、ロマン派から現代音楽までの作品と、ムソルグスキー作曲の「展覧会の絵」を演奏頂きました。

3月8日(火)本学3号館ホールにて、8回目となるオーケストラを媒体としたコンサート ルネッサンス21「プラネタリア」を行いました。本コース学生が作曲した作品12

曲がセントラル愛知の演奏で披露され、オーケストラと電子音のサウンド再生での融合などを取り入れ、新しい表現方法を取り入れたコンサートを行いました。

サウンド・メディアコース 講師 長江和哉

作曲・理論コース

作曲・理論コースでは、作品を作る上でかせないアカデミックな作曲理論の習熟と、それに裏打ちされた実際の作曲実習を中心にカリキュラムが組まれています。

特に作品制作については、1年次から4年次まで学年ごとに決められた課題作品を作曲し、演奏家に御願いして試演会を行います。また、例年3月に実施されます音楽文化創造学科のイベント「ルネッサンス21」で、本年も学生のオーケストラ作品が演奏され好評を博しています。

卒業演奏会でも成績上位の学生の室内楽作品が演奏されました。このように、作曲・理論コースで学ぶ学生は、作品の演奏されるチャンスに恵まれ、各学生が目標をもって充実した学生生活をおくっています。

作曲・理論コース 教授 田中範康

《演奏学科・音楽文化創造学科》

音楽総合コース

無事に卒業生を送り出し、新入生を迎える時期となりました。音楽総合コースは、昨年よりも多くのメンバーを迎えられそうです。

音楽総合コースでは、自分の関心を基礎にして、音楽学部の開講科目から履修する科目を選びます。つまり、音楽総合コースに所属する学生たちのカリキュラムは一人一人異なります。ここに音楽総合コースの魅力があります。しかし、これを行うためには、自分が何を研究するかを明確にしなければいけません。また、音楽学部のすべてのコースで開講されている教科についての知識が必要です。

この事情から、音楽総合コースは毎年4月1日から2日にかけて新入生の合宿を行います。合宿では教務から履修の仕方についてのオリエンテーションがなされ、各コースの教員からコースで開講されている教科の説明がされます。また、在学生も参加してアドバイスをしてくれます。この結果、合宿期間中に新入生は履修科目がほぼ決定できるようになります。

とくに今回の新たな内容として、楽典の基礎の指導とアドバイス、さらに履修にあたって必要な考えかたについて特別のオリエンテーションを加えました。

また、新入生にとっては、合宿はお互いが知り合いになれるよい機会です。合宿で得た知識と人とのつながりは、大学生活を始める貴重な財産となります。

音楽総合を支えるスタッフは、各コースおよび教養部会から選出される担任教員、その中から選ばれるコース運営委員からなります。これに加えて、教務担当職員、音楽総合コース担当の助手と非常勤の職員がいます。

現在合宿を前に、スタッフの多くを新たにし、新入生を迎える準備をしているところです。合宿によって、新入生が意欲的に大学生活を始められるようにと願っています。

音楽総合コース長 教授 中河 豊



美術学部

▶▶▶▶ アート界最前線で躍進する洋画コース卒業生

1: 洋画コース2研(現洋画2コース)卒業の鬼頭健吾氏がウォール・ストリート・ジャーナル『芸術に冷たい日本人』のレポートで日本の有望な若手アーティスト3名中の一人に挙げられる。

ウォール・ストリート・ジャーナル 12月21日(火)10時24分配信文中で国際的知名度をもつ日本人アーティストの草間弥生氏(81)や村上隆氏(47)、そして奈良美智氏(51)が世界で活躍しているが、上海、ソウル、ジャカルタなど、他のアジア諸国に比べて、超富裕層が少ない日本人が自国の芸術家を支援しない現状にもめげずに努力を怠っていないこれからの有望な若手アーティストとして、アジア・ソサエティー(NY)の手塚美和子氏は様々な素材を自由に扱う鬼頭健吾氏、画家でアニメーターの近藤聡乃氏、自画像専門の松井えり菜氏の名前を挙げた。

■ウォール・ストリート・ジャーナル(英称:The Wall Street Journal、WSJ)は、ニューヨークで発行される国際的な影響力を持つ日刊新聞である。長年にわたり、アメリカ合衆国内での発行部数第1位を占めてきたが、最近ではUSAトゥデイ(211万部)に次ぐ第2位になっている。



右、鬼頭健吾氏
雑誌「Art it」2007年No.17より

2: 「アーティスト・ファイル 2011—現代の作家たち」に鬼頭健吾氏出品!

東京・六本木の国立新美術館では2011年3月16日より第4回目『アーティスト・ファイル 2011—現代の作家たち』展を開催する。「アーティスト・ファイル」展は、国立新美術館が国内外でいま最も注目すべき活動を展開している作家たちを選抜し、紹介するアニュアル(毎年開催)形式展覧会。

出品作家(8名): クリスティン・ベイカー バード・ヘッド タラ・ドノヴァン 岩熊力也
鬼頭健吾 松江泰治 ビョルン・メルフス 中井川由季 ※アルファベット順

鬼頭健吾氏参考作品



■鬼頭健吾: 松蔭高校卒業(名古屋市)/名古屋芸術大学洋画コース2研卒業/京都市立芸術大学大学院研究科絵画専攻油画修士
平成20年度五島記念文化賞美術新人賞を受賞し、ニューヨークにて一年間研究。
現在 文科省派遣研究員としてベルリンに滞在研究中。

3: イギリスの Frieze Art Fair (2010年10/14-17) に 洋画コース卒業生の井上信也氏<ヒロミヨシギャラリーから>が出品した!

■井上信也: 岐阜総合学園高校卒業/名古屋芸術大学洋画コース卒業

■フリーズ・アート・フェア: アートフェア(美術見本市)の中で、トップクラスのはアート・パーゼル(スイスのパーゼルとアメリカのマイアミ)、ロンドンのFrieze(フリーズアートフェア)、ニューヨークのアーモリー・ショー。毎年10月にロンドンのリージェントパークの特設テント会場で行われるこのフェアには、世界から150強のギャラリーが参加し、来場者は6万人を超える。

井上信也氏参考作品

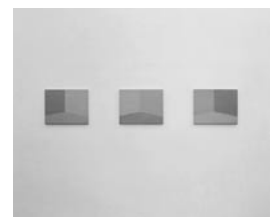


他の卒業生たちでも 昨年夏から開催された「あいちトリエンナーレ展」(愛知)に絵画作品を

発表したタローナスギャラリー(東京)取扱い作家の秋吉風人氏や「瀬戸内国際芸術祭」(香川・瀬戸内海)にて造形物を出品した禿鷹墳上氏、金沢21世紀美術館(石川)でパフォーマンスを演じた詩人の村田仁氏、タローナスギャラリー取扱い絵画作家の佐々木憲介氏、サントリーミュージアム天保山「GANDAMU展」(大阪)に出品した書家で美術家の横山豊蘭氏、映像・写真の河原崎貴光氏(現在 徳島大学教官)や岡川卓詩氏や渡部裕二氏、そしてマルチな表現の徳重道朗氏、画家の畠山瑞規氏など、また、女性ではコカ ササハラギャラリー(東京)で個展発表した絵画の和田典子氏、ギャラリーキャプション(岐阜)の絵画作家・百合草尚子氏、そして、昨年に小山登美夫ギャラリー(東京)で個展を催し、VOCA 展出品もはたした絵画の名知聡子氏や同ギャラリーが成長を温かく見守っている絵画・インスタレーション作家の佐藤翠氏、水戸芸術館現代美術センター(茨城)で絵画作品を発表した櫻井りえこ氏、関西や名古屋で活躍し始めた絵画の犬飼真弓氏、少し毛色が違うところでは「island JAPAN」(千葉・東京)のギャラリストスタッフとして活躍中の清水梓氏など、今後に期待できる卒業生が名前を挙げたらキリがない程にこの後も続いていて、まさに自白押しなどと言っては自画自賛が過ぎようか。それくらい卒業生の皆さんの活躍が眩しくもうれしい今日この頃である。

美術学部 洋画2コース 大崎正裕

(本特集は40歳以下の卒業生から編纂した。)



秋吉風人
「Room (e.b). Room (s.b). Room (t.b).」



名知聡子「Miniature Garden」

■VOCA展: 全国の美術館学芸員、ジャーナリスト、研究者などに、一人につき40才以下の若手作家一人を推薦依頼し、その作家が平面作品の新作を出品するという方式により、全国各地から未知の優れた才能を紹介する毎年、開催する各賞有りのプロへの登竜門的展覧会。会場は上野の森美術館(東京)。2009年には洋画コース卒業生の櫻井りえこ氏が出品(佳作受賞)。2010年は渡部裕二氏、和田典子氏、名知聡子氏が揃って出品。

デザイン学部

夏休みの直前の7月、折から地元で行われている愛知トリエンナーレの事務局跡のスペースがデザイン学部のサテライトギャラリーとしてオープンしました。

このギャラリーは、特別客員教授の萩原 修氏の「おやつどうぐてん」が開催されたことをかわきりに、8月以降デザイン学科のすべてのコースが一週間ごとにトリエンナーレ終了の10月いっぱいまで学生の作品が展示されました。この地下街は、朝夕、通勤の人たちが多く通行していますが、古く寂れてまさに時代もののイメージが濃厚な空間でしたが、ギャラリーとして改装したことで多くの人目を引くこととなりました。ギャラリーは古くなったコインロッカーを改装し「デザイン・ロッカー」と称してその中の作品展示を中心据えることで狭い空間を引き立てています。意外なところに意外な展示！と、都市の空間を見直す取組みは多くの人たちの共感呼びました。さらに展示は3月まで継続されました。

8月には、スペースデザイン・コースの学生が中心になって「あいち子供芸大」として小学生に対して「秘密基地を作ろう！」と題し、インディアンの住居である「ティピ」を制作するワークショップを行い保護者とともに工具や画材を使いそれぞれ個性ある作品を作り上げました。

後期に入り、デザイン学科の1年は、後期の基礎授業に、各コースはそれぞれの、課題に、プロジェクトに、4年生は卒業制作に本格的に入りました。

テキスタイル・デザインコースは6月の有松絞りまつりの中での「手ぬぐいの企画・生産・販売」に続き10月13日～15日に東京ビッグサイトで行われた繊維総合見本市「ジャパクリエーション」に学生がデザインした布地の柄をジャガード生地に織り上げ縫製したバッグ17点と帽子9点を出品しました。いずれも地元での専門業者であるワイズテキスタイルとワールドハットの協力を得ています。



有松絞りまつりでの手ぬぐいの展示販売の様子

9月から11月にかけてヴィジュアルデザインコースでは3年生の学生を中心にスタンプ、文具の大手メーカーであるシャチハタの協力を得て産学連携活動としての授業、ワークショップが行われました。シャチハタ株式会社から開発部の坂井満氏をお迎えし、学生たちはスタンプの新しい印面デザインに挑戦しました。学生たちは最新の業界事情をふまえた実際の講義を聴くなかで新たな角度から一ヶ月かけて制作したものをプレゼンテーションし、シャチハタの清水部長から丁寧な講評を受け優秀作品がシャチハタから表彰されるなど、学生たちにとっては確かな手応えのある授業でした。

11月12日よりアート&デザインセンターでは、前述の萩原 修氏の「デザインの周辺展」が出版されたデザイナーの講演も含めて行われました。

11月26日～12月1日メディアコミュニケーションコースのコース展が行われ力が入った作品は、学内でも多くの学生の目を集めました。

1月に入って、今年度のレビューは1月13日から24日まで行われました。1年から3年の学生が、1年間のすべての課題作品と自主制作した作品を体育館と、X棟に展示し、作品を前に、1年生は、進むべきコースの相談やアドバイスが行われます。2年3年も同様に作品講評が行われます。今年は1月15日(土)、16日(日)と22日(土)、23日(日)、と一般公開日としました。その結果より多くの学外の方々、ご父兄はじめ、企業の方々、マスコミにもからも注目されました。ことに16日(日)は例年のない大雪にもかかわらず多くの父兄はじめ関係者の方でにぎわいました。尚22日には今年の推薦入試の合格者で来年度からの新入生のために入学前プログラムが昨年引き続き行われました。参加者はそれぞれのコースでの在学生の作品を見て「おー！すごい！何時間で描いたの、この作品？」「へー！こんなことができるの？」と驚きの声を上げているのが印象的でした。

1月25日から名古屋白川公園近くのギャラリーA1で開催された『なごや展』は、地元、名古屋をテーマとしたヴィジュアルデザインの3年の学生による展覧会で、名古屋城、名古屋名物などなど名古屋の話題を興味深く、面白くとらえた展覧会でした。今年は4年目とあって作品も一層レベルアップされ、お招きした企業の方々も評価した楽しい取組みでした。

3月に入ると、メタルコースとテキスタイルコースの2年から4年の学生参加の展覧会が名古屋市東区のアンティークショップ TISANE INFUSION の空間で行われる予定です。

3月1日から一週間、大学院デザイン研究科の修了制作展が例年のように行われます。翌週の3月8日～13日に卒業制作展が愛知県美術館、名古屋市民ギャラリー矢田、および本学西キャンパスの3会場で行われました。

会期中の3月11日には本学が姉妹校提携しお互いの卒業制作展での優秀者を表彰し合っているブライトン

大学からの賞の受賞者の表彰式が東急ホテルで行われました。

また、今年の卒業制作展を記念して写真家の篠山紀信氏を招いて市民に開かれた講演会が一般市民を中心に250名の参加者のもと、篠山氏の作品と、ユーモアあふれるトークのもとに盛況に行われました。

3月11日に起こったマグニチュード9.0という未曾有の三陸沖太平洋地震のニュースを見た学生は「何かしなければ」と有志の行動として卒業制作展の会場で教職員とともに義援金を呼びかけました。この卒業制作展最終日のわずかな時間に10万円を超える募金が寄せられました。学生たちはこの日本の新たな状況のなかでたくましく生きていこうとしています。

こうして3月23日の卒業式で、修了生、卒業生を送り出し、この2010年度も終わろうとしています。

デザイン学部長 教授 溝口和夫



企画展「なごや展」の様子

人間発達学部

人間発達学部は今年度完成年度を迎え、第1期生154名、卒業いたします。卒業生の進路は、学生部長報告で述べられているような状況ですので、今後は更なる支援をしなくてはと思っています。昨年の11月、在学生を集めて、教育界、保育界などへの就職内定者の「私の合格体験談」を語る会を開催しましたが、大変熱心に聴いてくれました。その感想レポートから来年度以降の成果は期待できそうであると思っています。

二つめの近況は、大学院「人間発達学研究科 子ども発達学専攻」が、昨年の10月29日に設置認可がありました。これでやっと先発の3学部と同様に位置についたこととなります。認可が10月末であるし、学部の完成年度でもあり、初年度は十分な体制でスタートとはいえませんが、今後を期待して見守ってください。

三つめは、先の完成年度及び大学院設置とからんで、学部の教員組織の大幅な変更があります。表現を変えれば「子ども発達学科」の教員の3分の1が替わることとなります。しかしこの変更により、より一層充実した教育と研究が可能であることを確信しております。

四つめは、2年生以上には関係ありませんが、「保育士養成のカリキュラム」が今年度4月より変更され、新入生から実施されます。社会の変化により家庭もそこで育つ子どもも変わってくるための変更であり、より一層の教育体制の充実が要求されることとなりますが、それに十分応えられる体制が本学部にはあると自負しております。

五つめは、本学部が芸大の中の名実ともに一学部である方向での努力をしていることです。例えば昨年の「文化創造セミナー」やその他の行事で、音楽学部の諸先生を招聘して、歌や演奏して戴きました。今年度は美術学部の西村先生に「美術を読む～「たとえ」に満ちている世界」の題で講演して戴きました。専門の授業での交流はまだですが、全学のカリキュラム改正もありますので、学部間の交流も一層促進されるものと思っています。

最後に私事ですが、この3月で退職いたします。

後援会の皆さん、特に役員の皆さん、ありがとうございました。

人間発達学部長 教授 太田悦生

学生部からのメッセージ

人間発達学部 第1期卒業生の進路状況

人間発達学部は今年度完成年度を迎え、第1期生が卒業します。この4年間、学部教員及び職員ともに保育士、幼稚園教諭、小学校教諭など人間発達において社会に貢献できる人材の育成に努力してきました。そして何より学生自身の努力で、小学校教員採用試験に愛知県3名、名古屋市2名（一次合格者は10名）、公務員試験に10名（内名古屋市2名）、行政職1名が合格しました。さらに私立幼稚園・保育所を希望する学生は、全員が決まりました。また講師登録と臨時職員登録により、小学校9名、公立園6名の勤務が決まりました。

一般企業及び進学も含め、2月末現在でほぼ100名が進路を決定しています。まだ進路の決定していない学生については、ほとんどが講師登録、臨時職員登録を完了して連絡を待っている状況です。

大変厳しい就職状況の中で、第1期生の進路状況はこのような結果でした。いろいろな理由はありますが、我々教職員は、これを厳しく捉えて今後より成果が得られるよう取り組んでまいります。

未決定者に対しては、在学生とともに引き続き支援してまいります。学生支援課では、就職活動に対し、卒業後3年間引き続き就職支援サービスを利用できるようにしていますので、是非利用していただきたいと思います。

一人でも多くの学生が夢や希望を叶えられるように教職員一同一層努力してまいりますので、今後ともご理解とご協力を賜りますようお願い申し上げます。

学生部長 教授 菅嶋康浩

大学へのお問合せ先一覧

内 容	担当部署	電話番号
学納金(学費)について	庶務会計課	東キャンパス (音楽学部・人間発達学部) 0568-24-0315 (代) 西キャンパス (美術学部・デザイン学部) 0568-24-0325 (代)
成績について 証明書発行について 教員免許・学芸員資格について	教務課	
休学・退学について 課外活動・大学祭等について 住所変更等について 就職について 資格取得講座について アルバイトについて その他学生生活全般について	学生支援課	
本学入試に関すること 本学大学院進学について 本学研究生・研修生について	広報入試課	
交換留学について	国際交流センター(学生支援課)	
生涯学習講座について	生涯学習センター(芸術文化交流室)	
音楽学部主催の演奏会等について	演奏課	
アート&デザインセンターで開催する 展覧会について	アート&デザインセンター (芸術文化交流室)	西キャンパス 0568-24-0325 (代)
後援会について	芸術文化交流室	

大学事務局で保護者の方からのご質問やご相談にお応えする場合、以下のような確認をさせていただく場合があります。特に個人情報が含まれる内容に関しては、ご子の「学籍番号」の確認、本人の確認、保護者の確認を行った後、ご質問やご相談にお応えします。大学に登録されている情報と異なる場合は、お問合せに応じることができませんので悪しからずご承知おきください。

なお、以上の理由から、連絡先等を変更された場合は、お手数でも変更の手続きをなされますようお願いいたします。変更の手続きが行われなければ本学からのお知らせや成績等をお届けすることができなくなります。



2010年度 デザイン「Review」展の ご案内

デザイン学部の毎年度末行事である「デザインReview展」が本年度は、2011年1月15(土)・16日(日)・22日(土)・23日(日) 10:00-16:00 会場/名古屋芸術大学西キャンパスX棟、U棟、体育館で開催されました。

デザイン学部では、1、2、3年生を対象として、毎年年度末に、1年間で制作をした全ての作品の展示・口頭プレゼンテーションを行う演習科目「デザインレビュー」を実施し、また教員に向けてのプレゼンテーション・講評を終えた展示会場は、一般に向けても公開されました。

各学生が決められた個人ブース内(一部異なった形式もあります)に展示し、それぞれが創意をこらし「自分の世界」を表現しました。

卒業制作展以外では、学生たちの日常的な研鑽を学外に向けて公開できる数少ない企画でしたので、数多くのギャラリーが来場され熱心に作品を見学していました。

また、1月22日(土)は、2011年度のデザイン学科AO・推薦入試合格者の皆さんを対象とした第1回入学前プログラムが、このレビュー展会場で「見学ツアー」として行われました。



皆さん受賞おめでとうございます!

2010年度の本学在学学生(学部学生及び大学院生)や卒業生の展覧会や各種コンクール等における受賞結果をお知らせいたします。本人または担当教員を通じて報告のあったものだけをまとめています。

音楽学部

コンクール名	順位	楽器など	学年・卒業年度(期)	氏名
JEFエレクトーンステージ2010 スーパーライブ in 東海	第1位 金賞	電子オルガン	4年	尾関はるか
第1回クオリア音楽フェスティバル	大賞	ピアノ	1年	碓 大知
第1回クオリア音楽フェスティバル E部門	第3位、現代作品優秀演奏賞	ピアノ	4年	山本多恵佳
第4回横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 大学の部	第1位、ヴィルトーゾ賞	ピアノ	1年	碓 大知
	第2位	ピアノ	1年	首藤 友里
第4回横浜国際音楽コンクール ピアノ部門 一般の部	第1位、H.デュティエユ賞	ピアノ	37期 ピアノ	浅野 紋加
	第2位	ピアノ	2年	増岡 真実
第4回横浜国際音楽コンクール 管楽器部門 一般の部	第1位	ファゴット	大学院1年	加藤 佑
	第1位	ピアノ	11期 ピアノ	斎藤 伸子
			11期 ピアノ	藤枝 仁美
	第1位	ピアノ	16期 ピアノ	星野 博子
16期 ピアノ			尾関 愛	
第12回日本演奏家コンクール 大学の部	特別賞	ピアノ	4年	山本多恵佳
東海音楽フェスティバル	金賞	声 楽	2年	太田 麻華
第2回岐阜国際音楽祭	第1位 県知事賞	クラリネット	36期 弦管打	伊藤 美樹
	第1位 県知事賞	声 楽	26期 声楽	林 美予子
	岐阜市教育委員会賞	声 楽	34期 声楽	森 有世
	第5位	声 楽	24期 声楽	林 寛子
第11回大阪国際音楽コンクール 声楽部門 Age-G 歌曲コース	エスポアール賞	声 楽	34期 声楽	森 有世
第2回各務原音楽コンクール	最優秀賞	声 楽	24期 声楽	林 寛子
第4回東海ピアノ・オーディション	カワイ出版賞	声 楽	2年(文創総合)	奥村 真由
第41回イタリア声楽コンコルソ シエナ部門・フィナリスタ	金賞	声 楽	29期 声楽	伊藤 貴之
第16回KOBEL国際音楽コンクール	神戸新聞社賞、優秀賞	チューバ	37期 弦管打	吉沢 香純

美術学部

展覧会	賞	学科・コース	氏名	
第42回 日展	特選	日本画 卒業	吉田 千恵	
		入選	大学院美術研究科2年	伊与田朋美
			日本画 卒業	鶴飼 義太
			日本画 卒業	落合 初美
			日本画 卒業	木村 知彦
			日本画 卒業	服部 泰一
			日本画 卒業	林 真
			日本画 卒業	水野加奈子
	日本画 卒業	宮原 剛		
	彫刻	本年度無鑑査	彫刻 卒業	梶川俊一郎
		特選	大学院美術研究科 修了	植田 務
			彫刻 卒業	河村 佳則
		入選	彫刻 卒業	森 矢真人
			大学院美術研究科 修了	三政 洋一
中日賞		彫刻3年	松井みどり	

(※受賞等の情報は芸術文化交流室までお寄せ下さい。
※上記以外にも受賞された方がいらっしゃると思われませんがご了承ください。)

デザイン学部

■中川ケミカル「カッティングシート・コンペ」学生部門SDコースの竹川将平君が金賞を、西岡 毅君が佳作を受賞。表彰式で多くのデザイナーと交流することができました。

■美濃市で行われた「あかりアート展」PSブロック(インダストリアル・デザイン、スペースデザインのコース)2年生が出品し林 早紀さんの作品が買い上げとなりました。(8月)

■JIA(日本建築家協会)東海支部の住宅コンペで全国の工学部系の学生応募者の多いなかでSDコース佐藤情美さんが銅賞を獲得しました。(8月)

■愛知県印刷工業組合・愛知県印刷協同組合の主催で、COP10(生物多様性条約第10回締約国会議)の開催あわせた「環境保護」をテーマとした第1回ポスターコンペで、ヴィジュアルデザイン・コース林 大希さん(4年)が最優秀賞、大学生・専門学校生の部で同じく冠者佐奈江さん(4年)、大平穂波さん(3年)が優秀賞を受賞しました。その他、中部経済産業局長賞に齋藤加那子さん(3年)、愛知県教育委員会賞に蔵坪愛花さん(3年)、全印工連会長賞に辻 華香さん(4年)、協賛会社賞キングコーポレーション賞に松田佳歩さん(4年)、東洋インキ製造中部支社賞に湯口晶子さん(3年)が受賞。

9月28日(火)から行われた入賞・入選作品展の最終日10月3日に名古屋伏見の電気文化会館5階西ギャラリーで表彰されました。

■シャチハタとの産学連携活動における連携授業・ワークショップにおける優秀作品表彰(ヴィジュアルデザイン3年)デザイン賞「つなばん&つなくまスタンプ」齊藤可那子さん、「ピアノのおけいこスタンプ」上田萌子さん、「いんぐりっしゅスタンプ」杉江沙季さん、優秀賞「線路スタンプ」加藤さとみさん、「文香スタンプ」河出 葵さん、最優秀賞「かさデコスタンプ」森 みちかさん。※この連携事業の様子はテレビ東京の「日経スペシャル カンブリア宮殿」で放送されました。

■2月には、地元の西春師勝土地株式会社「賃貸マンションリフォーム・コンペ」で最優秀賞にスペースデザイン(2年)浅岡秀亮君「横断する部屋」、アイデア賞(同2年)大北康平君「Shell BOX」、NST賞(同2年)山下紀菜さんの「見栄っ張りな芸大生がおくる贅沢な一人暮らしのための部屋」、芸大賞(同2年)加藤千恵さんの「トビラの向こう」が受賞しました。

■三河パッケージデザインコンテストでは、3年インダストリアルデザイン・コースの村瀬美音さんが、と米村部門賞1位を獲得(現在商品計画中)>(11月)※なお同村瀬さんは昨年3月の第3回「からくりパズル、アイデアコンテスト」で「びっくり大賞」を受賞、受賞作品は職人の手で実制作され、箱根彫刻の森美術館に7/23~8/16まで展示されました。

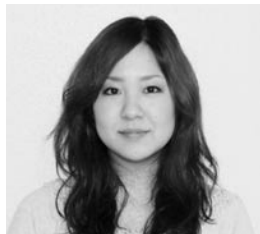
■3月11日(金)本学と英国ブライトン大学との間に相互の卒業制作展における優秀作品に賞を与え合う一環として2010年度ブライトン賞表彰式が卒業制作展会場に近い東急ホテルで行われ、ブライトン大学のジュリー・ケルミック博士とフランク・オ'サリバン先生によって卒業制作のなかから選考され、一等賞を『幻状/刻復』澤 恵美さん(美術・洋画)が受賞。デザイン学部では、二等賞『RAIN』井上幸次郎君(メディアデザイン)、三等賞『Paper magic Origami』弘中いつみさん(ヴィジュアルデザイン)、『SLOW 一擦ろう』石田英里さん(インダストリアルデザイン)が受賞しました。ほか佳作として岩田萌花さん(美術・日本画)草野敦子さん、宮崎美乃里さん(インダストリアルデザイン)、芝田光穂さん(メタルデザイン)亀井 梓さん(テキスタイルデザイン)長谷川健君(美術・造形)の作品が佳作に選ばれました。



最優秀賞 森 みちかさん▶
「かさデコスタンプ」

私 が 就職内定 を も ら う ま で

小学校の教員になりたい！！



音楽学部音楽文化創造学科
音楽総合選択コース
4年 村上裕美

教員になりたいと考え始めたのは小学生の頃でした。それから中学・高校と過ごすうちに、教員が私たち生徒に与える影響力はとても大きく、やりがいのある仕事だと思い、小学校の教員を目指すようになりました。

音楽学部では取得できる教員免許が中・高(音楽)であるため、小学校の免許は大学を卒業してから通信課程の大学で取得しようと考えていました。学内講座に『小学校教員免許認定試験対策講座』がある事を知り、在学中に小学校の免許を取得できる事が分かりました。1、2年生の春休みにその講座を受講し、試験が実施される3年生の9月まで勉強しました。また、2、3年生の夏休み、冬休みには『教員採用試験対策講座』を受講し、4年生の7月に実施される教員採用試験に備えて勉強しました。2つの受験のために、学内講座以外に1年半ほど

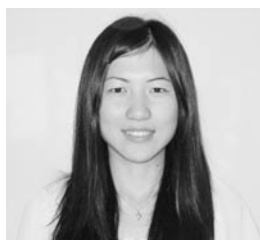
対策に時間を費やしました。辛い時期もありましたが、大学には教員を目指す仲間が多くいて、友達と一緒に講座を受けたり、勉強したりして励まし合いながら乗り越えることができました。また、先生方のご指導や学生支援課の方からの温かいバックアップも受け、本当にたくさんの人たちから支えられました。お世話になったみなさんに、良い結果を報告できたことはとても嬉しく思っています。

2つの試験を終えて、何よりも大切なことは強い意志を持つことだと感じました。学内講座では勉強のコツや面接のポイント等を教えてくれますが、最後は自分の努力でそれをモノにしなければなりません。教員になることは決して容易ではありませんが、夢に向かって目の前の段階から一歩ずつ歩んでいけば必ず叶えることができると思います。私にとって小学校教員免許認定試験は、教員になるためのいいステップになりました。

今、私はやっとスタートラインに立つことができました。子どもたちに「この先生に出会えてよかった」と思ってもらえるように、これからも自分を磨いていきます。

(愛知県公立小学校勤務)

保育士になりたい



人間発達学部
子ども発達学科
4年 蛸江里美

小さいころから子どもが好きで、保育士の仕事を意識し始めたのは中学生の頃からです。中学・高校とインターンシップがあると必ず保育園を希望し、子ども達と少しでも触れ合うようにしてきました。

また、高校は専門課程に進み、命の大切さなどを学び、子ども達に伝えていきたいと思うようになりました。そして、保育士資格を取得でき、小学校教育についての勉強もできる名古屋芸術大学に入学しました。

大学に入ると同じ志を持った仲間と出会い、もっと勉強して知識をつけなければいけない、と考えさせられました。しかし、あまり勉強が好きではない私は、知識と一緒に体験を通して沢山のことを学びたいと思い、「自然と暮らしを楽しむ会」という文化系サークルに入部しました。サークル活動を通じ、日本の文化や行事、自然

に触れることができました。そして、部長を任されたときには、企画や準備の時などは、顧問と部長、部長と部員の間での「報告・連絡・相談」を大切に、サークルが円滑に進むように努力しました。

また、3年生の終わりには、学内で実施されたヨーロッパ研修旅行に参加し、ドイツ・スイス・フランスの人々と出会いました。訪れた国の子ども達の姿を見て、遊んでいる姿は、どこの国の子ども達も変わらないと感じました。日常では経験できないことを数多く体験でき、とても有意義な研修でした。将来、子どもたちにサークルや研修旅行など大学生活で「体験」した、沢山のことを伝えていきたいと思っています。

その時その時は、何も考えずに4年間過ごしてきましたが、今思えば、様々な「体験」をすることは、勉強と同じぐらいプラスになると感じています。その「体験」に勉強して「知識」を身につければもっと自分の糧になる、と気付きました。4月から保育士として働けることは、この4年間があったからだと思っています。不安は沢山ありますが、信頼される保育士になりたいです。

(東海市公立保育園勤務)

チャンスを活かす

美術学部 造形科 造形コース
4年 長谷川健

私が就職活動に真剣に取り組んだのは4年生の夏でした。ずっと就職活動をしていなかったことへの焦りは感じていましたが、大学での制作活動に夢中になり、またそれを言い訳にして、なかなか真剣に考えようとしませんでした。そして、気が付けば4年生になり、焦りは強くなる一方、時間だけが過ぎていきました。

8月に、先生から求人募集のお話があると聞き、自分が大学で学んできた「ものを作る」ということが活かせる場だと感じ、これはチャンスだと思い、就職活動を始めました。

しかし、私は就職活動についての講義や講演会等にもあまり出席せず、就職活動について全く勉強していませんでした。履歴書の作成方法や面接試験のことなど知らないことばかりで、このとき初めて自分の未熟さを痛感しました。当然、履歴書の作成には苦労しました。ネットや本で調べたり、学生支援課の方に相談して何とか作成しました。

就職活動をする上で、私の持つ唯一の武器は受賞経験でした。これは2年生のときに出品した作品がグランプリを受賞し、3年生時には個展もさせて頂きました。面接試験は作品を持参するというものでしたので、私は受賞作品を見てもらいたく、学生支援課の方の協力を得

て、実物を持って行きました。周囲の人たちに助けをもらい、無事内定を頂くことができました。

私の場合、就職活動に取り組んだのはほんのわずかな期間だけでしたが、それを通じて、自分を見つめ直す機会を得ることができました。また、自分が普段から取り組んできたことは決して無駄にはならないと感じました。

(曾我ガラス株式会社 内定)



就活

デザイン学部 デザイン学科
4年 西垣みずほ

私はテキスタイル専攻でしたが、グラフィックにも興味があったので両方視野に入れながら就職活動をしていました。

リクナビなどある程度見ていましたが、沢山の学生が見ているので、パソコンで調べたり足で情報を集めました。例えばテキスタイルだとマテリアルセンターといって沢山の服の生地が置いてある施設があるので、そこでどんな企業があるのか調べました。地元の駅には伝統工芸品と企業・デザイナーが連携した商品を展示している場があり、こんな事をしている企業もあるんだと知るきっかけになったので家に帰ってからサイトを見たりしていました。

ただ私は面接が本当に苦手で、元気澁刺なタイプではないため、面接官に「クールだ」「熱意が伝わらない」と言われることがありました。言葉で熱意が伝わらないのなら、行動で示すしかないと思い、ある企業に対しては「こういう商品を作ったらどうか」など、自分で企画書を作り面接で提出したりしました。

それから求人が載ってなくても気になった会社には電話をして採用の有無を聞いてみました。今回就職が決まった会社も自分から電話をして、「ポートフォリオを送って下さい」と言われたのがきっかけです。その会社は、ポートフォリオをじっくり見てくださり、今までの面接で一番自分らしく話せましたし、会社の方も私らしさをちゃんと見てくださったように感じました。面接は無理に自分を作らず素直に話すことが一番大事だと思いました。

就職活動ではうまくいかないことの方が多いですが、電話で問い合わせをしたり足を運んだり、行動した分チャンスが巡ってくると思いました。

4月から新しい環境でも、自分らしく頑張っていきたいです。



親の想い

子どものお陰で目覚めた趣味

デザイン学部 デザイン学科
3年 父 佐藤俊明

瞬く間に過ぎた3年間だった。

親の立場からすると、そんな印象ではあるが、本人達からすれば中身の濃い一日一日だったということになるのだろうが。

娘達は一卵性の双子としてこの世に生まれ、小さい時から何をやるにも一緒だった。

二人とも中学、高校と吹奏楽部でクラリネットをやっていたが、お互いの間には協調と競争心があったと思う。

また、親の見方もどちらかが寂しさを感じないように公平と平等、ただし色違いで個性を出すというような習慣的の考えが身につけてしまっていたと思う。

二人とも名芸のデザイン科と一緒に入学する時には、いつどういうタイミングでそれぞれ違う道を行くのだろうかと考えたものだった。

そして、3年間の大学生活を通して、二人はそれぞれの個性に合った道を見つけ、精神的にも充実した生きがいを感じているようだ。

子供が二人も同時にお世話になっているということもあり、勧められるままに後援会の役員をやらせて頂いた事は私自身にとっても大変良い経験だった。

大学の先生方との交流を通して、子供達への教育のことや、現実的には就職について考える機会をいろいろ与えられたと思う。

そして、なによりも大きいのは、子供のお陰で自分自身が趣味に目覚めたということだと思う。文化芸術は余裕がないと中々ゆくりと楽しむことは出来ないが、大学が準備してくれるいろいろな機会に芸術を鑑賞するうちに自分もやってみたいという気にさせられる。

アニメをはじめとする日本の文化が世界の若者に大きな影響を与えている今、子供達と一緒に何か世界に発信して行けるのではないかと、未来に対してわくわくする思いがある。

私も時代に乗り遅れないように、世界に注目される日本のポップカルチャーなどをおなじりにも研究するようになった。

日本で何が元気かと言えば、創造力豊かな日本の若者達のイメージから生み出されていく高度で洗練された文化のように思う。

そして、これが産業的にもこれから大いに期待できる分野であることもわかった。

子供と趣味的文化を共有し、これからも一緒に楽しんでいけたらこんな幸せなことはないと感じている。

卒業を迎えて

人間発達学部 子ども発達学科
4年 母 大竹百合子

この春、息子が名古屋芸術大学を卒業致します。

息子は、人間発達学科の一期生として、4年間充実した日々を送っていました。学業においては、子供好きな息子にとって興味の湧くものが多く、その一環としての保育・教育実習も、大変ながらも楽しんでいたように思います。

保育園の実習ではおむつ交換を、幼稚園では指導の実践を行っていました。実習期間中には、その日一日の話を私も楽しく聞きながら、息子を励ましていました。特に、小学校の教育実習期間は一ヶ月と長く、さらに放課後も子供達と活動していたので、最後のお別れには感動して帰って来ていたのをよく覚えています。

また、私は保護者として、秋に開催される名芸の大学祭を毎年楽しみに出掛けていました。特に東キャンパスでは、人間発達学科がある影響で、地域のお子様が大勢家族で遊びに来てみえました。また、音楽学部の関係で演奏会やバンド発表なども多く、とても明るい雰囲気でした。

その中でも、息子が所属する和太鼓部の演奏は私の楽しみの一つでした。特に、昨年は息子が2年生のときに亡くなられた顧問の関戸先生を偲ぶ演奏で、とても感動致しました。数多く出店される模擬店においても、学生達の生き生きとした声・姿に触れることができ、名芸という大学の温かさを感じられるひとときでした。和太鼓部に所属する一方で、息子は「自然と暮らしを楽しむ会」というサークルに参加していました。そのサークル活動では様々な場所に出向き、先生やメンバーと自然の中で遊びや暮らしの意味を探っていました。

沢山の先生方との出会いやご指導、また仲間との関わりは、これからの息子にとって大きな財産になっていくことを、私は信じています。卒業を機に心からお礼申し上げます。ありがとうございました。



子の想い

残り1年を有意義に過ごしたい

美術学部 美術学科 洋画コース
3年 森岡紀恵

名古屋芸大に始めてきたのは、高校3年生でオープンキャンパスの時でした。校内を見てまわりアトリエがとても気に入り、入学したいと思いました。基礎をしっかり身につける為、夏休みにはデッサン教室に通う生活が始まりました。暑い時なので気持ちが悪くなることも何度かありましたが、教室に通う人達の真剣な姿に刺激を受け何とかのりきることができました。

受験までは不安でしたが、それにまさる程大学生活への憧れが大きかった様に思います。今は念願がかないこうして大学へ通えることが幸せです。

大学1年生のときには、受けたいと思った講義に人が集中して、受けられない事や課題が難しく苦労したこと、創作作業が順調に進まないなど、いろんな事があり、とまどうばかりでした。そんな中でも少しずつ友達ができ大学生活にも慣れてゆきました。

仲の良い友達とグループ展を開く為に活動しはじめました。グループ展の作品を用意することは多くの労力がいらいます。もともと筆が遅い私は他の人より時間がかかり懸命に描いてもなかなか作品をふやすことができません。遅くまでのこり創作する日が続きました。自分の納得ゆくものとはいえませんが、無事に開催出来た時には今までのつらい思いの全てが喜びに変わっていました。

又忙しい中でも、美術だけでなく演劇や音楽にふれる機会に恵まれ多くの作品を見てまわりました。苦労して貯めたバイト代もチケット代に消えてゆきましたが、すこしは血と肉になっていると思います。自分のやりたいことを出来る環境に感謝して残りの1年を有意義にすごしたいとおもいます。

自分の夢を叶えるために

人間発達学部 子ども発達学科
3年 真野果奈美

この春、卒業される4年生の先輩方、おめでとうございます。そして、私たち3年生に、就職についているんなアドバイスやお話を聞かせていただき、ありがとうございました。先生方や職員の皆様には、先輩方のお話を聞く場を作っていただき、自分の夢を実現する手助けをしていただいています。

今、私の周りでは、小学校教諭を目指す人や施設で子ども達と関わりたいという人、大学院で勉強したいという人など、ほとんどの人が目標をもち、勉強したりボランティアに行ったりして、なりたい自分に近づけるよう、努力しています。

入学当初は不安や戸惑いがありました。特に教育実習は初めてで、とても不安でした。ですが今では、実習の中で、失敗したことも悩んだことも、自分には必要なことだと感じています。そして、今までの実習で子ども達の笑顔に癒されたり、元気付けられたりして、子ども達に関わる仕事につきたいと、自分の意志を再確認しました。また、子ども達の想像力に触れて、成長する子ども達を見守り支える、保育者や指導者になるには、心を豊かにすることが必要だと感じました。

私にとって、3年間は長いようで短い時間でした。キャンパスにくるたびに、音楽、美術などの芸術を志し精進する仲間の姿に触れ、これまで知らなかった表現の世界に触れ、高校時代とは違うものの見方が出来るようになりました。学部が人間発達だからでしょうか、子ども達についてだけでなく、自分について、人について考え、学んできたような気がします。

この大学で過ごせる時間も残り少なくなりました。これまでの3年間、楽しく過ごせたのは、ご指導いただいた先生方や職員の方、学生生活をともにした先輩や友達、後輩の皆さんのお陰です。この場を借りてお礼を言います。ありがとうございました。

この大学に通わせてくれた、お父さん、お母さん、残り少ない、この短い時間をより充実した時間に来るよう、努力していきたいと思います。自分の夢を叶えるため、なりたい自分に近づくためにこれからも自分を磨いていきたいと思っています。



2010年度 名古屋芸術大学後援会 研修旅行報告

今年度の後援会研修旅行は、10月16日・17日、天気にも恵まれ、秋晴れのすがすがしい中、信州松本、美ヶ原方面に芸術の秋を楽しむ旅行に行っていました。

竹本学長を始めとして、大学教職員の皆様と後援会の先輩及び現役の役員の皆さんのにぎやかな団体旅行でした。

今年も予定通り順調に出発し、バスの中ではさっそく楽しい会話が弾みます。中央高速の眺めの良い景色を見ながら、しゃべったり、笑ったりしていると、瞬間に豊科付近に到着しました。

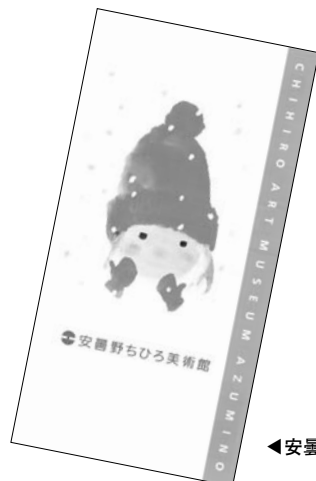
昼食を済ませると、穂高神社を参拝し、碓山美術館を見学しました。

デザイン学部長の溝口先生の解説をお伺いしながら、彫刻家萩原守衛の生命感溢れる作品を色々な角度から鑑賞させていただきました。やはり、専門家と共に鑑賞することの奥深さを感じさせられました。



▲於 碓山美術館

次に安曇野ちひろ美術館に移動すると、まず目を引いたのが、美術館の周囲に広がる安曇野ちひろ公園でした。清流乳川から広がる彼女が愛した豊かな自然の光りと風を感じることができます。そして館内ではちひろの作品と仕事を通してその人柄をととても身近に感じることができました。



◀安曇野ちひろ美術館パンフレット



▲於 美ヶ原高原

宿泊場所のホテル翔峰は松本市内を抜けて少し小高い所から市を見下ろすような場所にあります。信州松本美ヶ原温泉のこの宿は豪華でゆったりとしたたずまいの素敵なお宿でした。

恒例の宴会は大いに盛り上がり、最後は学長も輪に加わって肩を組み歌い踊り参加者全員が心ひとつになる楽しい宴でした。

又、大学教職員の方達とも風呂に入ったり、部屋で雑談などしたり旅先で親しく交流できるこういう機会がとても貴重なことに思いました。

翌日ホテルを出ると、美しいピーナスラインを上りながら頂上を目指します。バスガイドさんの気の利いたしゃべりとジョークが車内の空気を一層盛り上げます。

到着した美ヶ原美術館はさながら天上の城のようでした。眼下に広がる雲海とその遥か彼方の山々がなんと清涼で美しくすっかり見惚れてしまいました。

広大な敷地の作品群を鑑賞し終えて、昼食後には最後の見学地の安曇野ワイナリーに行きました。

逸品のワインが育まれるまでのお話を聞いた後、試飲コーナーでテイasting。珍しい種類のワインを楽しみ、心和むお買い物。旅先の思い出のおすそ分けで何本もお土産に買い込む人も…。

帰りのバスもビンゴゲームで盛り上がり、最後の最後まで短い二日間の旅を存分に楽しみ尽くした芸術と親睦の研修旅行でした。

副会長(事業委員長) 佐藤俊明

2010年度 名古屋芸術大学後援会 親睦旅行報告

「木祖セミナーハウスはいいところですよ…」

後援会の役員になってから何度も聞いた言葉である。

「木祖セミナーハウスは、そんなにいいところか？ぜひ行ってみたい。」と、思いつつ4年が過ぎようとしていた。それが実現に向けて動き出したのは、娘が卒業する間際の後援会役員・委員会の会合の場だった。事務局の方の趣味の話から役員・委員で研修会をセミナーハウスで開催しようと盛り上がったからだ。セミナーハウスを利用する目的が明確になり、一気に話が進んだ。

利用日が決まると、後援会の事務局に依頼し、セミナーハウスを押さえていただいた。それからは、自由学院の事務局の方やセミナーハウスの管理人さんと打ち合わせしながら準備を進めた。後援会事務局の方、自由学院の事務局の方、管理人さん、どなたも大変親切に、申込み方法から備品の有無などを教えてくださった。研修会当日の夜、講座はもちろん、その合間にバーベキューも楽しんだ。食材等はセミナーハウスで準備していただいた。野菜・ジンギスカン・みそ焼きおにぎりと、どれも美味しく、アルコールも入り満腹で食べきれなかった。これなら学生でも満足できるに違いないと感じた。親切な管理人さんには大変お世話になった。



翌日は、熊除けの鈴を鳴らしながら木曾川源流の里を散策し、味噌川ダムを見学した後、奈良井宿まで足を延ばし帰宅した。ほかにもやぶはらスキー場がすぐ近くにあり、四季を通して楽しめる場所である。このページに目が留まり、まだ利用されていない方、ぜひ一度利用していただきたい。講座はなくても十分に楽しめる場所である。

後援会監事 菅沼行生



2010年度 東キャンパス芸大祭

はな

今年の芸大祭のテーマは、【はな】でした。平仮名にした理由は、草木をイメージさせるかわいらしい「花」、大学生が行うという華やかな「華」、芸大祭というお祭りの香りが漂ってくる「鼻」、そしてハワイの言葉での「ohana」です。ohana は、家族という意味があり、地域の方々、学校全体で家族のような芸祭を開きたい。そのような願いを込めました。

今年は天候に恵まれず、開催ができないのでは…と、検討しましたが、なんとか無事に3日間開催もでき、お客様からの温かい笑顔にも出会えました。



今年も5つのステージを用意しました。パンクやロックが鳴り響くライブハウスさながらのグリーンステージ。ちょっと大人の雰囲気で落ち着ける、ジャズや電子ピアノが聴けるアコースティックなブルースステージ。クラシックやファッションショーが楽しめるイエローステージ。子供向けのゲームを1号館内に集めたオレンジステージ。そして沢山の応募があった中、厳選なる審査を通過したバンドや企画が出演でき、盛大な盛り上がりを見せたメインステージ。どれをとっても素晴らしいステージでした。

3日間は、1日目雨、2日目曇り、3日目台風…と、天候に大変左右されました。芸祭実行委員も大慌て！しかし出演者も素晴らしいステージを繰り広げてくれ、お客様も傘をさしながら楽しんで頂けました。

3日目の台風の影響で、もう中止じゃないのか…と、不安になりましたが全員の気持ちが強かったのでしょうか？台風は反れ、見事に晴れました！雨でもなんでも、笑顔が絶えない3日間は運営側としても本当に嬉しかったです。

例年がない事例に、ステージを移動したり、ずぶ濡れになりながらも走りまわった芸大祭。芸大祭前から毎日、睡眠時間も3時間程度で体力の限界を感じたけど、本当に「全員」が協力してくれて2010年の芸大祭は出来ました。【はな】というテーマで私もたくさんの【はな】に出逢うことが出来ました。これを読んでくださったあなたも、これからの人生にたくさんの【はな】を見つけてくだされば幸いです。

みんなみんな、ありがとう。お疲れ様でした！



東キャンパス芸大祭実行委員長 小淵千裕

2010年度 西キャンパス芸大祭



これは、みんなのつくる祭。



「開会式」実行委員が毎年その年のテーマを表現して、祭の始まりを告げるオープニングイベント。今年のテーマである「3.2.1 どっ感～これはみんなの祭～」に沿った壮大なイベントに芸大祭を待ちに待った名芸大生は圧倒的な盛り上がりを見せ、“みんなのつくる”大きな円陣は会場の心をついにし、その場の空気は大きな一体感に包まれた。

昼イベントのメインである実行委員の活力系イベント“スタジオパクリ”某アニメ系作品のパロディーイベントは、ユニークな劇やクオリティーの高い衣装や大道具に会場は大きな盛り上がりを見せた。

毎年反響の大きい“名芸一の美女”つまりミス名芸を決定するミスコン。夜ステージのメインイベントである

ミスコンの今年のテーマは『学校』。実行委員会が選抜したミス候補達の制服姿に、会場のテンションは最高潮に。学校の時間割に沿った国語や体育の、ミスパフォーマンスや水泳の授業での水着姿に会場のボルテージは、最高潮に達した。

毎年芸大祭の夜イベントで、随一の盛り上がりを見せる“ドラゴン”は、名芸一面白い人たちを決めるとも粋でちょっと過激なコンテストである。他の大学祭ではあまり見られないこの企画は、もう名芸大祭名物といってもいいだろう。名芸生のユニークなダンスや衣装に観客は爆笑。会場は大きな盛り上がりを見せた。

「閉会式」は、毎年4年生が主催するエンディングイベント。今年は「Nua DOKKAN24h TV」というテーマで、24時間テレビの感動をはるかに凌ぐものだった。人知を超越ダンスのキレや映像、極め付きは実行委員会の断髪式だった。数々の演出に全員のクラッカーの音で2010年芸大祭に別れを告げた。

西キャンパス芸大祭実行委員長

西キャンパス芸大祭実行委員長



後援会補助公開講座実施報告

音楽学部

ピアノコース 「ピアノのタベ」

ピアノコース第18回「ピアノのタベ」を、11月11日に電気文化会館 ザ・コンサートホールにて開催いたしました。

ピアノコース、総合コース、音楽教育コースを含めて多くの学生達が意欲的にオーディションを受けてくれました。特に今年は、ピアノコースの4年生全員が勉強の良い機会と捉えてチャレンジしてくれたことはとても良いことでした。その結果として13組のデュオと8人のソロ

での演奏会となり、当日はホール満員のお客様がいらして下さり、学生達も緊張のなかにもやりがいのある充実した演奏ができました。

この演奏会は重奏の演奏経験ができる貴重な場の一つとして、とても大切に思っている公演ですので、これからも大いに盛り上げていこうと考えています。

演奏学科 ピアノコース 教授 岡由美子

弦管打・バンドディレクターコース 「室内楽のタベ」

12月熱田文化小劇場で開催された室内楽のタベでは、学内オーディション25組の中から選ばれた13組が演奏しました。今年 弦楽器のアンサンブルが2つ、なかなか良かったです。ウインドアンサンブルでは、2月めいっぱいアバンの演奏会と、CD制作に励んでいます。12月

の北名古屋市主催オーケストラでは、ピアノの2人、弦楽器卒業生2人、院生のチェロと多彩なプログラムになりました。

演奏学科 弦管打・バンドディレクターコース 教授 森 典子

音楽文化創造学科 音楽教育コース

2011年2月1日に、声楽家の鮫島有美子先生による特別講義日本の歌とその概核が開催されました。日本の歌8曲の素晴らしい演奏につづき、日本歌曲の詩の解釈について、またテキストの処理の仕方など、日本歌曲の表現に関する貴重なお話を伺いました。参加した約60名の学生は、いずれも真剣に耳を傾けていました。

音楽文化創造学科 音楽教育コース 教授 金子敦子



音楽文化創造学科 音楽療法コース 「甘建民 二胡コンサート」

3月12日(土)午後1時30分より東キャンパス3号館ホールにて後援会後援をいただき、音楽学部音楽文化創造学科音楽療法コース主催の「甘建民 二胡コンサート」開催しました。この前日、東日本大震災が起これ、ニュースでも悲惨な様子が刻々と報道されるのをみるにつけ、果たして公開講座を開催しても良いものかと思案しましたが、甘先生は東京発の新幹線に乗車する寸前に地震の発生を受けたにも関わらず、東京駅のホームで約5時間以上待たれたうえ、何としてもと深夜に名古屋入りをされました。

また当日は多くのお客様も駆けつけていただき、私たちスタッフも震災にあわれた方々への思いを十分に受け止めてこの講座を開催することにしました。甘先生の二胡の音は司会の山田純先生曰く「鳥肌がたった」との言葉どおり、澄みきった音色と心から溢れる情感が聞く者の心にしみわたる素晴らしいものでした。鳴りやまぬ拍手の中、13曲の演奏が終わり先生はじめ皆一様に、この

講座を開催してよかったという思いにかられました。

丁寧な解説を交え司会をしていただいた山田純先生、ピアノ伴奏の平野玲美さん、有難うございました。また私もピアノ伴奏および二胡の共演をさせていただき改めて心を打つ二胡の音に大変感激しました。

最後に後援会のみなさまに感謝申し上げます。

音楽文化創造学科 音楽療法コース 教授 久保田進子



後援会補助公開講座実施報告

美術学部

2010年度後援会補助公開講座事業として、美術・デザイン学部共通として三事業、美術学部単独事業として四事業を企画し後援会より下記のような補助を頂き、実施することが出来ました。各事業とも、名古屋芸術大学の芸術教育を向う大変重要な方向性を示す企画であったと、考えております。ここに企画者の労をねぎらうとともに、御支援いただいた後援会に感謝申し上げます。

美術学部長 神戸峰男

〈美術学部単独〉

1. 「Unique Commons —わたしだけのもの、みんなのもの— 名古屋」

この展覧会は、名古屋芸術大学洋画科を卒業して10年位経った人から大学院生まで、現在も熱意ある制作活動を続けている人達の企画展です。

今の時代はめまぐるしく変わり、自分の道を見つけるのも大変な事と思います。皆様に希望したいのは、自分の道を見つけるのに宇宙的、地球的、世界的な視野で今の政治、経済、文化の動きを見詰め、自分の方向性を深く思考して決めて欲しいと思います。我々はアーティストであるけれども、世界や日本の政治・経済・文化の最低の動向は知っておくべきです。マスコミの報道等も鵜のみにするのではなくその裏も読める様になれば素晴らしいです。

ところで、現在のアートはグローバルな価値観で造られた作品が大勢を占めています。オリジナリティ(個人的なアイディア)、コンテンポラリー(現代的)である事という2つの条件でここ30年程は造り続けられて来ました。しかし原始時代から今日までの主軸になっていたリアリティ(真理)の追求はどこかへ忘れ去られています。また真理のある作品を見る感性も鈍くなって来ているのが現代人です。人は生まれて真理の追究をするという事は、重要な事と思います。また、芸術は人を活かす、生かす為にあるという事を忘れないで欲しい。

現在、長年に渡り築かれて来た近代社会の仕組みも限界の兆しが見えて来ました。名古屋芸術大学ゆかりのアーティスト達がこの大変化の時を無事に乗り切り、更なるリアリティの追求を作品化することで自己表現に努めることで、大成就されることを祈念するものです。尚、この企画に賛同・御支援いただいた後援会各位に感謝申し上げます。

美術学部 教授 原田 久

2. 検証シンポジウム! あいちトリエンナーレを振り返る

2010年12月に、美術文化コース(アートコミュニケーション選択コース)の授業「芸術専門演習」では、あいち

トリエンナーレ2010を題材としたドキュメント展示を学内の教室(G棟ワーキングルーム)で実施します。その展示と連動し、次回2013年の第二回に向けて、国際展の意義を問い直し、その成華を検証するシンポジウムです。キュレーターや行政関係者を招き、社会に開かれた事業を、学生が中心となり運営発信するものです。

3. 「After Remisen #12 ; 石倉悦加科 × 加藤美奈子」展

1999年度より、デンマーク、ブランデ市のレミセン・アカデミーと開催している国際交流プロジェクトで、今年度ブランデ市で開催される「International Workshop Visual Artists in Remisen Brande 2010」に招待されている石倉悦加氏(版画コース研究生修了)と加藤美奈子氏(大学院同時代表現専攻修了)の2名による帰国報告展。初日、デンマークでのワークショップとそれ以降の制作などについて、アーティスト、トークを開催予定。

主催：版画コース

4. デンマーク、ブランデ市の レミセン・アカデミーより招聘した 2名の作家による アーティスト・イン・レジデンス

1999年度より毎年、レミセン・アカデミーとの間で実施している国際交流プロジェクト。デンマークからは、本学に欧州の2名の作家を招聘し、本学からは2名の卒業生作家をデンマークでのワークショップに派遣し、人的交流する内容。

今年度は、Helle Vinter(デンマーク/オブジェ制作/女性)とMarina Pagh(デンマーク/絵画制作/女性)の2名を招き、公開制作(5/10~6/2、於：G103教室)、特別講演「自作について」((5/21、於：G207)、展覧会「From Remisen #12; Helle Vinter & Marina Pagh」(6/4~9、ギャラリーBE)を開催。公開制作中に、延べ30名程の学生がG103教室で一緒に作品制作を行い、学生達の制作した作品を展示する「Around "From Remisen"」展を同時開催(スタジオ)。

またこれまで交換でデンマークでのワークショップ「International Workshop Visual Artists in Remisen Brande」に招待された23名の本学卒業生作家の12×12cmの小作品を展示する「After Remisen 12×12」展も同時開催(ギャラリーbe)。

今年7月にデンマークで開催されるワークショップには、石倉悦加(版画コース研究生修了)と加藤美奈子(大学院同時代表現修了)の2名卒業生作家が招かれ参加予定。

主催：版画コース/アートクリエイターコース

〈共通〉

1. 旧加藤邸 アートプロジェクト2010 「記憶の庭で遊ぶ」展

2009年度に、北名古屋市の回想法センター内の旧加藤家住宅を会場として、「記憶の庭で遊ぶ」をテーマに制作する作品を、本学学生及び卒業生を対象に公募し、選抜作品を旧加藤邸住宅の屋内及び屋外に展示し、多くの北名古屋市民が会場を訪れ好評を博した。

【今回の企画】

昨年度の成功を受け、今年度は北名古屋市も若干の予算がつき、本学と共同開催として本学学生及び卒業生を対象に公募することになった。

主催：名古屋芸術大学美術学部、北名古屋市教育委員会

2. 第三回 「ア—ッ！ラジオ a” aart RADIO!」

ラジオを核にして学内で法規最長限度(半径300m以下)の電波を流す三日間限定のミニFM文化放送事業です。

学生スタッフは美術学部やデザイン学部から広く募り、開かれたプロジェクトチームを作る。番組表に添って学生スタッフがゲストにインタビューをして、文化(美術)に関する様々な番組内容を放送する。ゲストは、第一線で活動している美術関係者や文化人です。彼等の活動や仕事にかかわる関連企画も用意して、番組内容の理解度を高めると共に、学生達の制作の一助とする。

企画は、プロジェクトが立ち上がった時出現し、終ると消える仮の研究室、「仮設」—構想領域研究室です。

施設造り：

■＜A & Dセンター1Fスタジオ1＞

デザイン研究室と協力してコミュニケーションカフェを造り、前回より一歩踏み込む形で視聴者に放送内容や関連企画についての会話などを行う場として使用する。

■＜A & Dセンター1F小ギャラリー+ラウンジ＞

展覧会や映像上映など、ゲストに関わる数種の関連企画を行う。

■＜A & Dセンター中2F＞

木工房の協力を得て、放送スタジオを造る。

他、今後の企画内容によっては外の展示場所を使用することもある。

3. 第38回卒業制作 記念講演会

名古屋芸術大学創立40周年記念事業として企画

■2011年3月12日(土)

■愛知芸術文化センター

講師／篠山 紀信 氏

「現代を激写する」



後援会補助公開講座実施報告

デザイン学部

9月13日から15日の3日間、インダストリアルデザイン・コースでは特別公開講座「モーターサイクル&カーデザインセミナー2010」が本学学生を含む7大学1専門学校および留学生の参加でコンセプトからデザインスケッチまでの講習がホンダの5名のデザイナーの直接指導で行われ、カーデザイナーをめざす学生にとっては実り多い講座となり、名古屋地区のプロダクトデザインをめざす学生の交流の場ともなりました。

学内外にわたる取組みでは、これまで学内で毎年行われてきた「JAGDA(日本グラフィックデザイナー協会)新人賞受賞作家展」が国際デザインセンターとの共催で2週間にわたって、会場もデザインセンターのギャラリーで行われ、9月3日には3人の新人賞作家(八木秀人、長嶋りかこ、木住野彰吾の三氏)を招き、学内と展示会場トークショーが行われ、学生はじめ多くの学外関係者にも見ていただくことができました。

今年で3回目になる常滑フィールド・トリップは、常滑に陶器工房をもつ本学が中心になって県下のデザイン・美術の学生とともにその作品を古い民家や工場を借

り、伝統産業の町の景観をフィールドとし展示空間として再生させ、フィールドマップを手にデザインと現代芸術の作品を訪ね歩くという企画です。今年の初日、10月9日(土)は雨にたたられましたが、翌日からは会期中天気もよく多くの来場者の中で学生たちの様々な取組みが目を引きました。

10月15日、22日、11月5日とデザイン学部メディアコミュニケーションコースでは、写真家のホンマタカシ氏を特別講師としてお迎えし、公開講座として「今日の写真を考える」をテーマに3回にわたって講義され、そのなかで学生に課題を出し、その講評も含めワークショップがすすめられ、写真を通して現代美術から広告まで氏の作品と講義を通じて参加者に大きな感銘を与られました。

メディアデザイン・コースでは2月7日～9日にかけてパリ第8大学の教授であり、世界的な活動で知られるメディア・アーティストであるジャン・ルイ・ボアシエ先生をパリから本学の特別客員教授としてお招きし公開講座として講演とワークショップが行われました。アー

ティスト、デザイナー、研究者のための iPhone, iPad 用アプリ開発環境「mobilizing」による携帯端末でできるインタラクティブ・コンテンツの制作をボワシエ氏と共に行うという先進分野での興味深い内容は会場の国際デザインセンターとアップルストア栄に本学学生のみならず、学外からも多くの専門家や一般市民の参加もあり共感を呼ぶ取組みとなりました。

また、今年の卒業制作展を記念した講演会として写真家の篠山紀信氏を招いて市民に開かれた講演会「現代を

激写する」が、愛知芸術文化センターのアートスペース A で行われました。会場は篠山氏の話しを聞きたいと集まった一般市民を中心に250名の人が参加でにぎわいました。氏の「なぜわたしが写真家になったか」に始まり、1960年代、70年代、80、90年代そして今日へと昭和平成の写真を通しての世の移り変わり、氏の作風、時代から与えられる氏の制作についての考えが語られ、会場から出された質問にもユーモアを交え丁寧にこたえられ、実り多い公開講座となりました。

デザイン学部長 教授 溝口和夫

後援会補助公開講座実施報告

人間発達学部



2010年7月31日(土) 午後3時より、愛知県女性総合センター(ウイルあいち)のウィルホールにおいて、東京女子大学名誉教授の柏木恵子先生をお招きして、2010年度名古屋芸術大

学人間発達学部特別公開講座「子どもが育つ条件—子どもとおとなの発達—」を開催しました。

人間発達学部では、2008年4月に「人間発達研究所」を設立し、研究活動の一層の推進とともに「地域に開かれ、地域に貢献する」学部を目指して、各種の事業を実施してきました。この特別公開講座はその研究所事業の一つで、本年度も後援会から補助をいただき、学生の他、広く県内外の一般の方、保育・教育の関係者に呼び掛けて開催しました。

これまでは、「保育所保育指針」と「幼稚園教育要領」の内容が議論、改正された時期でもあったため、それらに関するテーマの公開講座が続きましたが、今回は「子どもの育ち」に焦点を絞ったテーマで開催しました。連日猛暑が続く中でしたが、450名もの参加があり、参加者は講師の先生の優しい語り口と動物や諸外国の事例や研究データを交えた内容に吸い込まれるように聴き入っていました。

講師の柏木先生は、発達心理学、家族心理学が専門で、まず、「人が発達すること」について、動物の例と対比しながら、三つのルートを挙げてお話がありました。①人の赤ちゃんは生まれたときは全く無力であり、大人に育てられ、教えられて育つ。



人は小さくて頼りないものを「育もうとする心と力」を本来に備えている。しかも複数の人によって育てられるのが基本だ。②子どもは自発的に育つ。教えられなくてもできてしまうことがある。「観察学習の名手」だ。自ら能動的に学ぶ、主体性を持った積極的な存在である。③子どもは自分の理想、未来を目標にして自分を変えていく、自分を育てていく力を備えている。



次に、現代の子育て事情や子育て不安の背景などに触れながら、子どもにとっての「豊かな発達環境」についてお話がありました。①物質的豊かさでなく、親と子のかかわりの豊かさ、②子どもへのかかわりの多様性、応答性、③「駄目」と言わない、子どもの自尊感情(「ポジティブなフィードバック」)の三点が大切であることがいろいろの事例をもとに述べられ、子育てにおいては、「子どもが育つこと」と「親が育っていくこと」とは並行でなければならないこと、それには親自身が「個人として生き生きと成長していくこと」が大切であることが強調されました。

最後に、「ヘア・インディアンに学ぶ」として、この部族は、大人は上下関係から子どもには何も教えない、子どもは大人の後について回って大人のやることをじっと見ていて、大人をモデルにして必要なことを覚えていく、大人は無邪気でひょうきんなことをする子どもとの生活を楽んでいるとの話を紹介しながら、子どもは子ども自身で育っていく、余裕を持って子どもを見たり、楽しんだりしながら、親も育っていくことが大事であると締めくくられました。現代社会で失われたヘア・インディアンの育児文化のお話は会場を出てからも余韻として心に残った講演会でした。

人間発達学部 准教授 鈴木岩雄

名古屋芸術大学音楽学部 第38回卒業演奏会



2011年3月3日(木)・4日(金)の両日、名古屋市中区伏見にあります三井住友海上しらかわホールにおいて、名古屋芸術大学音楽学部第38回卒業演奏会が行われました。4年間の学業の成果を発表する最後のステージである卒業演奏会に今年度は、28名の学生が選ばれました。大学関係者・家族・友人を含め約700名の聴衆の前で、緊張の中にもこれまでの成果をいかに発揮した優れた演奏を披露していました。

また優秀創業論文学生の発表も行われ、音楽文化創造学科音楽教育選択コースで3名、同学科音楽療法選択コースで4名、同学科音楽ビジネス・ステージマネジメント選択コースで1名が選ばれました。そして優秀作品では、音楽文化創造学科サウンド・メディア選択コースの学生1名が選ばれました。

演奏学科 学科長 教授 山田敏裕

名古屋芸術大学大学院音楽研究科 第13回修了演奏会



2011年3月9日(水)～11日(金)の3日間、名古屋芸術大学大学院音楽研究科の第13回修了演奏会が、名古屋市中区伏見にあります三井住友海上しらかわホールで行われました。

この修了演奏会は、大学院音楽研究科修士課程を修了する院生全員の研究成果発表会です。今回は指揮者にヨーロッパで研鑽を積まれ、ヨーロッパ各地のオーケストラ、日本では札幌交響楽団、名古屋フィルハーモニー交響楽団など多くの有名オーケストラを指揮している濱津清二氏を迎え、コレギウム・アカデミカ(名芸大教員を中心に編成されたオーケストラ)との協演で協奏曲オペラリア、作品発表など様々な形での演奏が繰り広げられました。

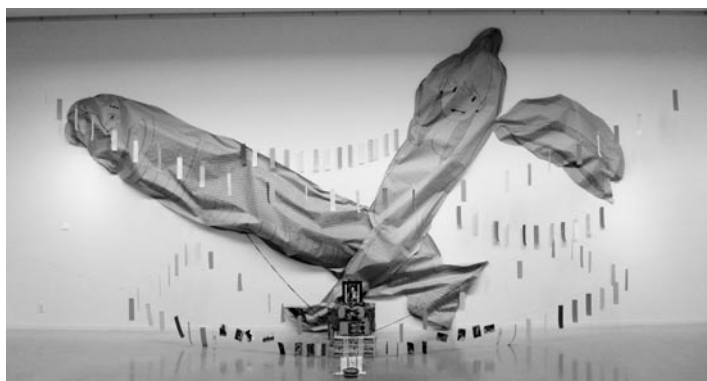
研究成果の発表に全精力をもって臨んだ修了生に対し、関係者をはじめ多くの聴衆から暖かい拍手がおくられていました。

演奏学科 学科長 教授 山田敏裕

第15回名古屋芸術大学大学院美術研究科・デザイン研究科 修了制作展

名古屋芸術大学大学院美術研究科及びデザイン研究科の第15回目の修了制作展が、3月1日(火)～6日(日)まで、名古屋市中区の名古屋市民ギャラリー矢田で開催され、この春、大学院修士課程を修了する学生たちの専門的研究と研鑽を重ねて制作された作品が一堂に展示されました。

美術研究科美術専攻では、絵画研究(日本画制作)と絵画研究(洋画制作)及び同時代表現研究各専攻生の2年間の集大成である自己表現としての作品が、また、デザイン研究科デザイン専攻は、3Dデザイン研究、クラフトデザイン研究生の感性と専門分野の知識に裏付けられた作品が展示されました。期間中、友人や家族、卒業生や後輩など大勢の関係者が訪れ、熱心に鑑賞していました。



『第38回卒業制作展』

今回の卒業制作展は昨年度より1週間遅い開催となりました。3月8日(火)から13日(日)までの6日間、愛知県美術館ギャラリー(美術学部/絵画科、美術文化学科 デザイン学部/デザイン学科 全コース)、名古屋市民ギャラリー矢田(美術学部/造形科、版画選択コース デザイン学部/クラフトブロック、メディアデザイン選択コース)、名古屋芸術大学 西キャンパスでは、アート&デザインセンター(美術学部/洋画 デザイン学部/プロダクト&スペースブロック)の3会場において作品展示がされました。

また、11日(金)の18時からと7日(土)の10時から愛知芸術文化センターの12階にあるアートスペースE・Fにおいて、会場内各所に展示された映像作品をまとめて、ゆっくりイスに座って大きなスクリーンで楽しめる映像作品上映会も行われました。

会場の数が増えてから、できるだけ多くの方に見に来てもらえるよう始めたスタンプラリーによる作品プレゼントも恒例となりました。毎年楽しみにしていただいているリピーターも増えているようで、今年も好評でした。

ポスターやちらし・DMの制作にあたって、今年度も在学生と卒業生からデザインを募集しました。コンペ形式にして以来、最も多い応募数で力作ぞろいでした。

その中から柏田唯さん(デザイン学科メディアコミュニケーションデザイン選択コース4年生)の作品が選ばれました。これまでの卒業制作展ポスターとは傾向の違う新鮮なデザインで人目を引きました。また、学生たちの作品制作における表現の多様性を伝えようというねらいから、シンボルイメージの真ん中の色を変えた4種類のDMをつくりました。ちょっと贅沢な感じで、好ましい印象を持っていただけました。

今年は、「ただつくって展示して見てもらえればそれでいい」といった、作り手の一方的な姿勢に対して、観客に「ただ見てもらう」以上の「何か」を求めている作品がいくつか見られました。これまでもコンピュータを使ったインタラクティブ(相互に作用しあう)な作品はありましたが、それらの多くはインタラクティブそのものがテーマとなっていました。しかしテーマや表現手法などごく自然なものでありながら、作品に触れさせた



尾崎有香さん「夢路の果て」

り、作品を見る位置を積極的に指示したりするなど、自分の作品との関わりを強く望む作者の強い意志を感じさせるものが目立ちました。人と人とのコミュニケーションが希薄と言われる状況を敏感にとらえ、何とかしようという思いが伝わってきます。

11日金曜日の午後、東日本大震災が起き愛知県美術館の8階も大きく揺れ、一瞬軽いパニック状態になりました。デザイン学部のクラフトブロックの作品が倒れましたが、幸い怪我をした人はなく作品もすぐ修復できる程度の被害だったので一安心でした。

その翌12日土曜日には、愛知芸術文化センターのアートスペースAにおいて写真家の篠山紀信さんをお迎えして「現代を激写する」というタイトルで卒業制作展記念講演会を開催しました。時間をかけていねいに卒業制作展会場を見学されてからの講演は、若い頃の写真を志したきっかけから始まり、時代を激写した作品映像を交えながら年代ごとに進行しました。篠山さんの尽きることのない情熱と人間味あふれる話し振りで、満員の会場は世代を超えた豊かな感動に包まれました。篠山さんのお話は学生にとって、卒業後も永く創作活動を続け、彼らの時代を築いていくための最良の手がかりとなったことでしょう。

小さなトラブルはありましたが、学生、教員はじめ多くの関係の方々のご協力により無事閉展できましたことを感謝しています。

卒業制作展委員長 佐藤英治



設営の様子



杉浦安衣さん「tete “washbowl for kids”」

第21回 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座（報告）

本学生涯学習大学公開講座も今年で21回を迎え、東西キャンパス合わせて24講座を開催いたしました。新たに二胡（入門）講座やモザイク画の歴史と見所講座などを開設し、好評のうちに終了することができました。

また、名古屋市生涯学習推進センター主催の「大学連携講座」においても講座を開講し、多数の受講申し込みをいただきました。

今後も皆さまの幅広いニーズにお応えできるよう、充実した講座開設につとめてまいります。多くの方々のご参加をお待ちしております。なお、2011年度の講座につきましては、6月中旬頃パンフレットが完成する予定です。

お問い合わせは、本学生涯学習センターまで御願います。また、名古屋市との連携講座に関することは、名古屋市生涯学習推進センターまでお問い合わせ下さい。



▲オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル



▲やきもの講座



▲二胡を楽しむ

2010年度 名古屋芸術大学 生涯学習大学公開講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	吹きガラスに挑戦!	10	西キャンパス
2	人物(着衣)のデッサンと油絵実	17	
3	美術鑑賞入門—フランス近代絵画の魅力—	9	
4	やきもの講座—染付け技法で絵付けに挑戦「花瓶を彩る」	6	
5	MacintoshCG入門! ～Adobe Photoshopで簡単デジタルラージュ制作～	10	
6	やさしい創作折紙	13	
7	美しい水彩画Ⅲ—秋を描く、野と森と花	30	
8	木彫りを楽しむPartⅡ	14	
9	粘土による造形～テラコッタ～ Part Ⅱ	10	
10	楽しいピンポン(卓球講座)	5	
11	体験! リトグラフ～多色刷り石版画で作品を～	12	
12	カラー銅版画講座	7	
13	子ども造形と積み木遊び「和久洋三が提唱するWMメソッド(和久メソッド)創造共有」(幼児クラス)	9	
14	子ども造形と積み木遊び「和久洋三が提唱するWMメソッド(和久メソッド)創造共有」(小学生クラス)	7	
15	自然の色を染めて織る—リジット機を用いて—	12	
16	二胡を楽しむ～入門編	5	東キャンパス
17	イタリア伝統工芸モザイク画の歴史と見所	10	
18	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル(初心者向け)	18	
19	オカリナで楽しむ癒しのアンサンブル(経験者向け)	19	
20	～思い出には歌がある～歌のチカラ不滅の歌謡曲	13	
21	パソコンを使って簡単な作曲をしてみよう	5	
22	現代歌舞伎講座	7	
23	「日本の歌」を英語で歌いましょう	4	
24	インターネットとWordではがき作成	9	
	合計	261	

2010年度 名古屋市生涯学習大学連携講座

	講座名	受講者数	開催場所
1	有名作曲家の「雑学博士」になりませんか?	203	名古屋市女性会館



▲カラー銅版画



▲人物デッサンと油絵

慶南大学校 グローバルハンマプログラムに参加して

私は、本当に数えきれないほどの貴重な体験をすることができました。

まず釜山空港に着いて初めて出会ったのが、青山学院大学と神奈川大学の先輩達、そして私のグループのトウミを努めてくれたジョン オンニさんでした。それから3週間このメンバーでいることが多く、もし最初に出会った人がこの先輩達でなかったら、こんなにも楽しめなかったらと思うくらいに親交を深めることができました。他にも山口県や北陸、関東、そしてロシア、中国、台湾、香港、フィリピン、インドネシアなど世界規模で、さまざまな国の学生達と運命的な出会いをしました。

そんな素敵な皆さんと3週間という短い間に、いろいろな思い出を作りました。韓国の伝統的な楽器「サムルノリ」の体験、凧や扇子作り、民族衣装「チマチョゴリ」の試着、ソウルと慶州の世界遺産巡りなど、プライベートな旅行ではなかなか体験できないようなことをさせていただきました。ですが、私の中で最も心に残っているのは、皆でマッコリを飲んでわいわい騒いだり、食堂でご飯を食べたり、誕生会をしたり、夜の学校の芝生でサッカーやバドミントンをしたり、友達や先輩と寮の部屋で



話をしたり、ショッピングをしたり・・・。そんな何気ない仲間との絡みや、笑いがあつたり涙したりという日常が本当に忘れられない一番の思い出です。まさに青春でした。

寂しい別れをして5ヶ月ほど経った今でも、慶南大学校で出会った皆とはネットを通じて連絡を取り合っています。できることならば、また全員と再会してもっと仲良くなりたいです。私は以前から韓国が大好きで、ハン

グルの独学を始め「いつか韓国留学したい」と密かにもう一つの夢を抱いていたので、今回この企画に参加することができて、薦めて下さった先生や学生支援課の方々、そして企画への参加を許してくれた両親にとっても感謝しています。

それから何よりも慶南大学校で、韓国へ行く少し前に初めて会ったにもかかわらず、3週間同じ部屋で仲良くしてくれた親友に心からありがとうございますと伝えたいです。



音楽学部 演奏学科 1年 水越晴菜

グローバル ハンマプログラムの 内容

(2010年度の場合)

- | | |
|------|---|
| 学 習 | 韓国語の語学能力別クラスに分けられ、レベルに応じて午前中学ぶ。韓国文化(作法、伝統料理作り、織物体験、テコンドーなど)観光旅行、キャンプ、映画・絵画鑑賞、史跡見学など |
| 費 用 | 本学学生は、2名まで滞在費用は免除される(姉妹校提携校のため)本人負担は、往復の交通費及び個人負担のみ。 |
| 募集時期 | 5月上旬～下旬 学生支援課掲示板等に掲載 |

2010年度 ブライトン 大学賞

「ブライトン大学賞」は、本学と姉妹校提携を結んでいるイギリスのブライトン大学が、本学の卒業制作作品の優秀者に贈る賞で、本学からは、ブライトン大学の学生に対し「名古屋芸術大学賞」を贈り、毎年相互の交流を深めています。

2010年度のブライトン大学賞の入賞者が決定し、その授賞式が3月11日(金)に東急ホテルで行われました。1等賞1名、2等賞1名、3等賞2名と佳作6名の合計10名の優秀者が表彰されました。

本年度は、ブライトン大学からジュリ・ケルミック博士とフランク・オ'スリバン氏の両名が来日され、卒業制作展の行われた3会場(本学西キャンパス、名古屋市民ギャラリー矢田、愛知県美術館)を廻って作品を審査し、受賞者が決定されました。



表彰式の冒頭で挨拶に立った竹本学長は、ブライトンの両先生にお礼の言葉を述べた後、「ブライトン大学との交流は本学の国際交流のモデルであり、今後も益々交流を深めていきたい。」と熱く語られました。

続いて、ジュリ・ケルミック博士とフランク・オ'スリバン氏の挨拶と講評が行われ、その後、両氏から、受賞者一人ひとりに受賞の理由と表彰状が手渡されて式典を終りました。

No	賞	科・コース	氏名	作品名
1	1等賞	美術学部 絵画科 洋画コース	澤 恵美	幻状／刻復
2	2等賞	デザイン学部 メディアデザインコース	井上幸次郎	RAIN (アニメーション6min)
3	3等賞	デザイン学部 ヴィジュアルデザインコース	弘中いつみ	paper Magic Origami
4		デザイン学部 インダストリアルデザインコース	石田 英里	SLOW—擦ろう (ワサビやショウガなどを擦って使う道具を皿に一本化した器の提案)
5	佳作	美術学部 絵画科 日本画コース	岩田 萌花	Dan
6		デザイン学部 インダストリアルデザインコース	草野 敦子	itumono～病院でのベッド上洗顔セット～
7		デザイン学部 スペースデザインコース	宮崎美乃里	“座” Stool
8		デザイン学部 メタル&ジュエリーデザインコース	柴田 光穂	はびこる
9		デザイン学部 テキスタイルデザインコース	亀井 梓	痛みをモチーフとした精神の解放 ～針と糸のドローイング
10		美術学部 造形コース	長谷川 健	Recreation



▲1等 澤 恵美さん「幻状／刻復」



▲2等 井上幸次郎さん「RAIN」



▲佳作 長谷川 健さん「Recreation」



▲3等 弘中いつみさん「paper Magic Origami」

名古屋芸術大学音楽学部 同窓会総会・卒業生懇親会

去る2010年10月9日(土)に名古屋マリオットアソシアホテルにおいて、音楽学部同窓会総会と、同窓会及び音楽学部共催の「卒業生懇親会」が開催されました。

総会は山田正丈会長を議長に、平成22年度事業報告・決算報告、平成23年度事業計画・予算案を審議し、いずれも原案どおり承認されました。

総会閉会后、会場を移しての「懇親会」は約180名の参加者を迎え、今回も盛会となりました。山田正丈会長の挨拶でパーティーが始まり、歓談の輪がいくつものなか、卒業生の澤村麻依子さんによる電子オルガンの演奏なども加わり、おおいに盛り上がりました。

また今回のゴールデンプライズは、第4回横浜国際音楽コンクールで第1位を受賞されたデュオ2組4名と、ソロ2名の方々に贈られました。

○アンサンブル部門 連弾の部

斎藤伸子さん、藤枝仁美さんペア

(ともに11期ピアノコース卒業)

星野博子さん、尾関愛さんペア

(ともに16期ピアノコース卒業)

○ピアノ部門 一般の部

浅野紋加さん(37期ピアノコース卒業)

○管楽器部門 一般の部

加藤佑さん(37期弦管打コース卒業)

恩師や友人との久しぶりの再会ということもあり、パーティー終了後もロビーには尽きることのない話し声があふれていました。

東キャンパス 演奏課 課長 太田成夫
(7期 声楽科 卒業)

名古屋芸術大学美術学部・デザイン学部 同窓会総会・卒業生懇親会報告

美術学部日本画コース 准教授 荒木紀江
(12期絵画科 日本画コース卒業)

去る2010年11月21日、第23回美術学部・デザイン学部同窓会総会、懇親会がホテル「ルブラ王山」に於いて開催されました。今回は20名を超える先生方の出席を頂き、同窓生の近況を中心にゆっくりとまたじっくりと歓談出来る素晴らしい機会となりました。

また、洋画コース卒業のアコースティックユニット「山田晋吾とマキノリョータ」を迎え、ヨーロッパの伝

統音楽を彷彿させるオリジナルソングを生演奏して頂きました。

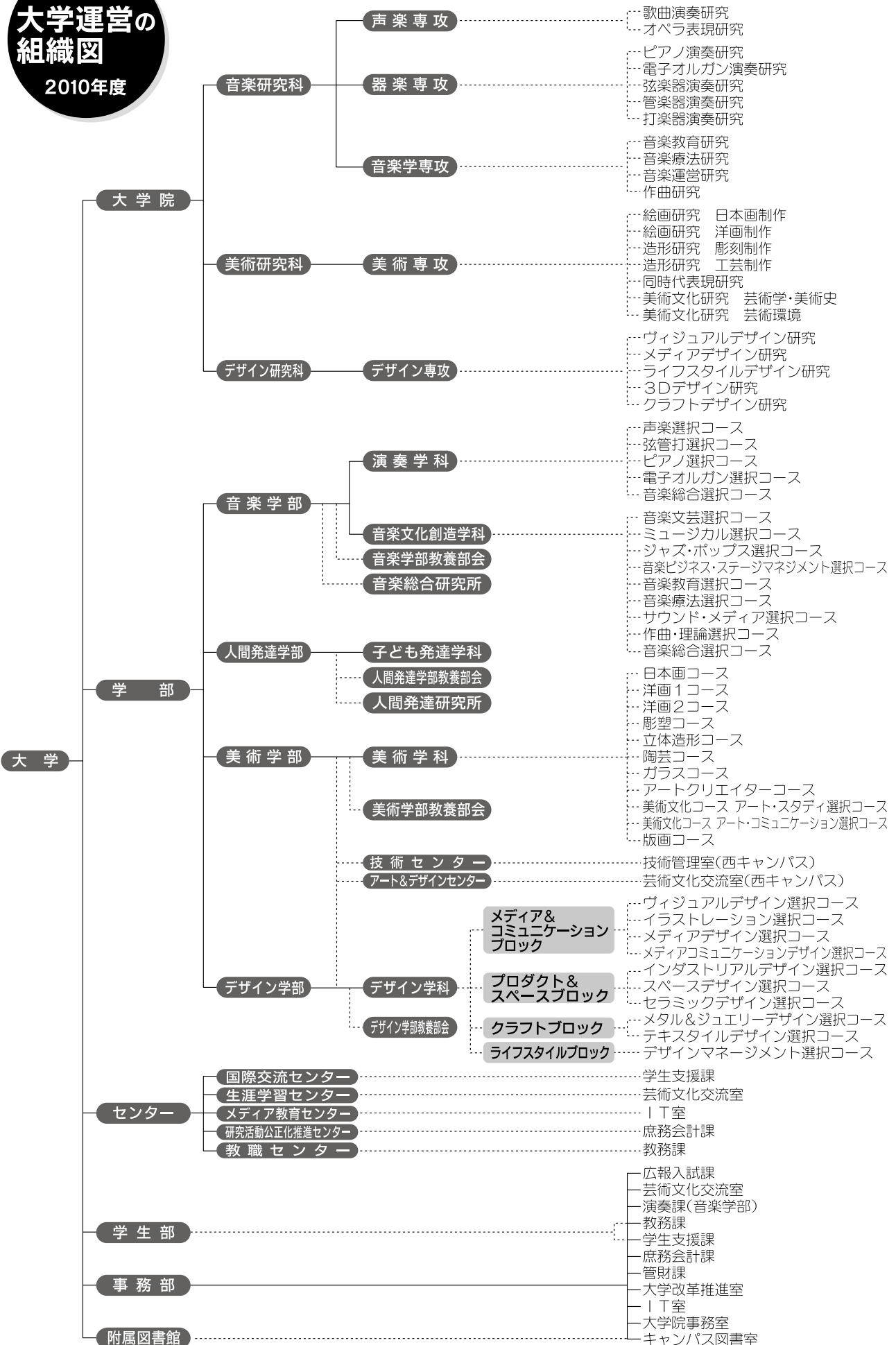
ゴールデンプライズは今回の日展で2回目の特選を受賞した24期卒日本画の吉田千恵さんが受賞されました。

年を追うごとに同窓会総会・懇親会の出席者が増えています。この繋がりが益々深く、有意義なものに発展していく事を祈ります。



大学運営の組織図

2010年度



後援会授業料貸付事業

昨今の底の見えぬ不況の中で決して安いとは言えない芸術系大学の授業料は、家計を直撃しているのではないかと思います。こうした状況の中で、保護者が亡くなられたり病気になられたり、失業された家庭は大変だと思います。このような家庭の学生諸君の少しでも助けになればと考えて始められたのが、後援会の授業料貸付事業です。1993年にこの事業が始まってから、現在までに70数名の学生がこの事業の恩恵を受けています。

後援会員の皆さんが納められた会費を、この事業の基金としているため、いくつかの条件がありますが、次の貸付規程を読まれて、後援会の授業料貸付事業を活用していただけたらと思います。申込受付窓口は、各キャンパス教務学生課となっています。気楽に相談してみてください。

名古屋芸術大学後援会学費資金等の貸付規程

(目的)

第1条 名古屋芸術大学後援会(以下「後援会」という。)が行う学生の福利厚生事業の一環として、家計急変等により学費の納入が困難な学生に対し、後援会が学費を貸し付けることにより修学を援助することを目的とする。

(定義)

第2条 この規程により学費の貸付を受ける者を、名古屋芸術大学後援会学費貸与生(以下「貸与生」という。)と称する。貸付する学費を名古屋芸術大学後援会貸付金とする。

(資金)

第3条 学費貸付金は次の資金をもってこれにあてる。
 (1)後援会学費貸付口座預金
 (2)この規程に基づく返還金
 (3)寄付金・その他の収入

(貸付額)

第4条 該当学年の学生納付金半期分以内とする。
 2 貸付金は無利息とする。
 3 未返済金がある者に対しては、貸し増しは行わない。

(貸付方法)

第5条 学費貸付は、大学授業料口座への振込みによって行う。

(審議)

第6条 貸与生及び貸付額の決定に関しては、学生部長が大学の全学教務学生委員会の審議を経て、後援会会長に推薦する。

(貸与生の決定)

第7条 貸与生の決定は、後援会会長が行なう。

(貸与生の選考基準)

第8条 貸与生の選考基準は、以下に基づいて選考する。
 (1) 1年以上継続した本会会員の子弟であること。
 (2) 家計急変等のため本学に修学することが、特に困難であること。
 (3) 応募者の属する世帯の1年間の総所得金額が独立行政法人日本学生支援機構の収入基準以下であること。
 (4) 修学に十分耐うるものと認められること。

(申請手続)

第9条 学費貸付を希望するものは、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。
 なお、手続は学生部教務学生課を窓口とする。

(1) 後援会貸付金借用願

(2) 貸付金返済計画書

(3) 学費貸付希望者の所属する学科長の推薦書

(4) 学費貸付希望者の属する世帯の1年間の総所得金額を証明する書類。

(借用手続・借用証書)

第10条 学費貸付決定者は、次に掲げる書類を後援会会長に提出しなければならない。

- (1) 借用証書(借用願と同じ保証人および連帯保証人の連署を要する)
- (2) 貸付金返済計画書に基づく同意書
- (3) 銀行口座振替依頼書(自動送金サービス用)(学籍を離れる時に提出するものとする)

(返還及期間)

第11条 貸付金は、学籍を離れてから3年以内で返還しなければならない。ただし、借用願出の際に虚偽の記載があった時は、直ちに返済するものとする。
 2 返還方法は、一括返済または元金均等割とする。
 3 貸付金の返還は、いつでも繰り上げて返還することができる。
 4 返還は、学生部教務学生課を窓口とする。

(返還猶予)

第12条 貸与生が傷病・その他やむを得ない事由によって返還猶予を願い出たときは、相当と認める期間猶予することができる。

(権限委任)

第13条 この規程に基づく学費貸付金の貸付手続き及び返済收受等の一切の権限を学長に委任するものとする。なお、この規程で疑義が生じたときは、会長と学長が協議のうえ決定する。

(改廃)

第14条 この規程の改廃は、後援会の総会の議を経て会長が行なう。

附則

- 1 この規程は昭和61年7月1日から適用する。
- 2 この規程は昭和63年4月1日から適用する。
- 3 この改正規程は平成16年4月1日から適用する。
- 4 この改正規程は2005年(平成17年)4月1日から適用する。

名古屋芸術大学後援会会則

- 第1条 本会は名古屋芸術大学後援会（以下「本会」という）と称し、事務局は名古屋芸術大学内におく。
- 第2条 本会は名古屋芸術大学の教育方針に基づき、大学諸活動の後援を目的とする。
- 第3条 本会は前条の目的を達成するために、次の事業を行う。
 (1) 学生の課外活動への援助と学生の福利厚生に関する援助。
 (2) 大学の正常な運営への寄与と、保護者の希望を大学に反映させる活動。
 (3) その他本会の目的達成に必要と認める事業。
- 第4条 本会は名古屋芸術大学学生の保護者または、これに代わる者及び役員会が認めた本学卒業生の保護者をもって組織する。
- 第5条 本会に次の役員をおく。
 会長1名、副会長4名、監事1名、会計監査2名、書記2名、会計1名。
- 第6条 本会の役員選出は次の方法による。
 (1) 役員は総会において会員の中から選出する。
 (2) 書記、会計は役員の中から会長が委嘱する。
 (3) 役員の任期は1カ年とする。但し再任は妨げない。
- 第7条 本会役員の仕事は次の通りとする。
 (1) 会長は会務を統括し、副会長は会長を補佐、会長事故ある時はその代理をする。
 (2) 監事は会務を監査する。
 (3) 書記、会計は会長に委嘱された会務を行う。
- 第8条 本会の会議は総会、役員会とし、議長はその都度選出する。
- 第9条 定期総会は原則として年1回、5月に会長が招集する。必要と認めた場合は臨時総会を開くことができる。
- 第10条 総会は次の事項を審議・決定する。
 (1) 事業の実施、収支決算及び予算に関すること。
 (2) 会則の改定、会の解散に関すること。
 (3) 役員を選出、その他の役員が必要と認めた事項。
- 第11条 総会は出席会員で成立し、議事は出席会員及び出席者に委任した者の過半数をもって議決する。
- 第12条 役員会は出席役員で成立し、会長が招集、議事は出席役員の過半数で議決する。役員会は総会への提案と決定事項の実施、運営にあたる。
- 第13条 本会に顧問をおくことができる。顧問は役員会の承認により、会長が委嘱し、会長の要請により各会議に参加し意見を述べる。
- 第14条 本会の経費は、会費及び寄付金をもってこれにあてる。会費は入学時16,000円、2年次以降年額10,000円とする。
- 第15条 本会の会計年度は4月1日より翌年3月31日までとする。
- 第16条 本会則の運営に必要な事項は役員会の議を経て会長が定める。
- 附則 1 本会則は昭和62年6月22日から実施する。
 2 本会則は昭和63年6月12日一部改正し、即実施する。
 3 本改正会則は平成10年5月31日から実施する。

名古屋芸術大学後援会の弔意に関する内規

1. 学生が死亡したときは、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金1万円を給付する。
2. 保護者（父・母）が死亡したときも、担当者からの申請に基づきその家族に対し、弔慰金5,000円を給付する。
3. 役員2親等血族および1親等の姻族が死亡した場合は、弔慰金として5,000円を給付する。
4. 弔慰金の給付については、事由の発生から1年以内に後援会事務局に申請されたものに限る。
5. この内規により処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会に事後報告する。

附則1. この内規は、慣例的に実施していたものを平成15年4月1日付けで明文化する。

附則2. この改正内規は、2006年6月1日より施行する。

名古屋芸術大学後援会顧問の委嘱に関する内規

1. 名古屋芸術大学の顧問は、原則として、役員会の承認に基づき、会長、副会長経験者の中から会長が委嘱する。
2. 顧問の任期は、会長経験者は15年、副会長経験者は10年とする。
3. この内規に基づき処理できない場合は、会長の判断により執行し役員会の承認を得るものとする。

附則 この内規は2005年（平成17年）4月1日から適用する。

「木祖セミナーハウス」をご利用ください

利用目的

木祖セミナーハウスは、共同生活を通じて相互の理解を深め、親睦を図るとともにスポーツや自然と親しむといった福利厚生を目的としています。主にセミナー・合宿等の学校行事、教職員の研修の場として利用する他、厚生宿泊施設として利用できます。



利用できる方

- ① 本学院傘下の学校の学生・生徒（生涯学習等含む）及び園児及びその家族
- ② 本学院の教職員（退職者及び非常勤講師・非常勤職員を含む）及びその家族
- ③ 本学院傘下の学校を卒業・卒園した方及びその家族
- ④ ①～③に掲げる利用者から紹介された方で、管理責任者が特に利用を認めた者
- ⑤ その他、木祖村の行事等で管理責任者が特に利用を認めた者

利用期間

12月30日の宿泊から1月2日までを除く通年。但し、9月の第2土・日曜日は休業

施設利用料

1泊1名分の利用料は次のとおりです。（食事代は含みません。）

①	②	③	④	⑤	⑥
本学院の園児 （〃卒園で中学生以上の方）	本学院の 学生・生徒 （〃卒業生）	本学院の教職員 及び退職者	①～③の家族	①～④の紹介	木祖村の行事等 関係者
500円 (2,000円)	1,000円 (2,000円)	1,500円	2,000円	5,000円	2,000円

※④～⑥の利用者の同伴者で、3歳から小学校6年生までは各利用者の半額、2歳までは無料

●食事の予約について

食事希望の方は予約が必要です。{1名分 朝食500円 夕食1,500円(小学生以下750円)}

バーベキュー：7月～9月までの限定。料金1,800円(小学生以下1,500円)

問い合わせ・申し込み先

下記へ電話で仮予約をしてください。その後の手続きは、その時にご説明します。

〈学校法人名古屋自由学院 法人事務局総務部総務課 TEL: 0568-24-0311〉

交通アクセス

所在地：〒399-6203 長野県木曽郡木祖村小木曾4793 TEL & FAX: 0264-36-2570

◆自家用車利用の場合

①中央自動車道中津川インターより国道19号約90分 菅より村道約15分

②中央自動車道伊那インターより国道316号(権兵トンネル)経由国道19号約30分 菅より村道約15分

◆公共の交通機関を利用する場合

JR中央西線 藪原駅下車

①村内巡回バス(10月～3月の土・日・祝祭日は運休)バス停「辺見屋敷」又は「スキー場」下車 徒歩15分～20分

②タクシー利用約15分 やぶはらタクシー(要予約 TEL: 0264-36-2403)

付近の観光スポット

- ・こだまの森(テニス、プール、パターゴルフ、多目的運動場、バーベキューハウス、巨大迷路、溪流釣り等)
- ・やぶはら高原スキー場
- ・木曽福島、上松、寝覚の床、野麦峠、上高地、白骨温泉、乗鞍高原等

編集後記

第50号後援会会報が、皆様方のご協力と事務局の方々のご努力で、発行できたことを心より感謝しております。

後援会会報には、いろいろな思い出があります。大学の方針や近況報告それに各学部の活動報告また各行事の案内それから親の思い、子の思いは参考になることもありました。会報を読めば名古屋芸大のことが多かれ少なかれ分るのではないのでしょうか。

思えば子どもの入学と共に私も後援会委員、役員になりあつという間に4年間という歳月が過ぎりましたがその間には、あのリーマンショックいまだに日本の経済も不安定な状況での学生達の就職難、わが子も同じ辛いものです。

後援会役員も今年5月の総会をもって終りになります。いろいろな方々との出会い、また役員・委員さん方との交流を楽しく過ごさせて頂きありがとうございました。

広報委員長 原田昌央

- ◆発行 名古屋芸術大学後援会
〒481-8503
愛知県北名古屋市熊之庄古井281番地
TEL. 0568-24-0315 FAX. 0568-24-0317
- ◆編集 名古屋芸術大学後援会 広報委員会
- ◆表紙デザイン
本学デザイン学科学生 武藤理恵子
- ◆封筒デザイン
本学デザイン学科卒業生 福見光洋
- ◆発行日 2011年(平成23年)3月31日

